

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名	和	E	主担当教員	対象年次	学期	曜日・校時	開講期間
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660010Q1	●人間と文化(日本の思想文化)	和	E	佐久間正	2年,3年,4年	前期	水5	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660010Q2	●人間と文化(共生のグローバル人類学)	和	E	増田 研	2年,3年,4年	前期	水5	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660010Q3	●人間と文化(疑似科学とのつき合い方)	和	E	武藤 浩二	2年,3年,4年	前期	水5	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660010Q4	●人間と文化(宗教学)	和	E	滝澤 克彦	2年,3年,4年	前期	水5	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660010Q5	●人間と文化(破壊事故とヒューマンファクタ)	和	E	勝田 順一	2年,3年,4年	後期	金3	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660010Q6	●人間と文化(英語で学ぶオランダと西欧の文化)	和	E	山下 龍	2年,3年,4年	前期	木3	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660010Q7	●人間と文化(日本語と表現)	和	E	鈴木 慶子	2年,3年,4年	後期	木3	～

[戻る](#)

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660010Q1	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(日本の思想文化)		
編集担当教員	佐久間 正		
授業担当教員名(科目責任者)	佐久間 正		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	佐久間 正		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	sakuma@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	多文化社会学部1号館		
担当教員TEL	095-819-2920		
担当教員オフィスアワー	授業終了後30分		
授業の概要及び位置づけ	授業は教養教育の人文的授業であり、次の三部に大別される。(1) 言語、思想、文化の連関についての理論的考察。(2) 列島の自然的・文化的条件。(3) 日本の思想文化の概要。		
授業到達目標	日本の歴史に関する理解を踏まえ、日本の思想文化の内容と特質について基本的な知識を有し、簡単な説明ができる。多文化社会における思想文化の基本的在り方について理解している。		
授業方法（学習指導法）	教科書は用いず、配布する資料に基づいて授業を進め、適宜討論の時間を設ける。また受講生は授業内容及び指定された文献を読み、意見を述べる事が義務づけられる。参考文献等は適宜紹介する。		
授業内容	回	内容	
	1	はじめに 言語、思想、文化	
	2	列島の自然と文化、中華帝国とその周辺	
	3	土着、外来、日本化	
	4	仏教（1） 伝来、古代仏教	
	5	仏教（2） 鎌倉文教	
	6	仏教（3） 室町、徳川期の仏教	
	7	儒教（1） 伝来。古代～戦国期	
	8	儒教（2） 徳川儒教	
	9	儒教（3） 徳川儒教（続き）	
	10	神道（1） 神道の形成と展開	

	11	神道（2） 徳川期、国学
	12	キリスト教 伝来・浸透・禁教 南蛮学、蘭学、洋学
	13	琉球王国の思想文化
	14	近代日本の思想文化
	15	おわりに 多文化社会の思想文化
	16	定期試験
キーワード	土着・外来・日本化、神道、仏教、儒教、キリスト教	
教科書・教材・参考書	教科書は用いず、授業内容の資料を配布する。参考文献等は適宜紹介する。	
成績評価の方法・基準等	期末試験70%、授業への参加30%	
受講要件（履修条件）	高校の日本史及び倫理の教養・知識を身に付けていることを前提とする。それらを選択しなかった者は、それらの教科書を読んでおくこと。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	授業で取り上げる文献（『古事記』から福沢諭吉『学問のすすめ』等）をぜひ手にとって読み進めてください。哲学思想の学びでは、知識を取得すること以上に、自ら深く思索することが大切です。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660010Q2	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(共生のグローバル人類学)		
編集担当教員	増田 研		
授業担当教員名(科目責任者)	増田 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	増田 研		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-12		
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス	ken-m@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境401（増田研究室）		
担当教員TEL	095-819-2734		
担当教員オフィスアワー	随時（事前連絡が必要）		
授業の概要及び位置づけ	<p>グローバル化された世界における共生のあり方を、文化人類学という武器を使って探る。これがこの「共生のグローバル人類学」という講義の目的である。文化人類学は異文化ひいては文化的他者を理解する学問であり、なおかつ、人類文化の普遍性を明らかにする学問である。他方、私たちが生きる世界においては、共生の重要性を誰もが認めつつも、それと真っ向から対立する出来事が充ち満ちている。必要なことは「過去に学び、現在を理解し、未来を構想する」、そのための身のこなしを習得することであり、そのこと自体の重要性を理解することであろう。またグローバル化された世界を構想する力を養うことは、自らのポジションを見定めることでもある。</p>		
授業到達目標	<p>(1)現代世界が抱える問題について、歴史的背景を把握しながら理解し、説明できる。 (2)社会的事象に対する文化人類学アプローチの特色を理解し、説明できる。 (3)現在進行している「共生」への模索と、その解決の道筋を構想し、主張することが出来る。</p>		
授業方法（学習指導法）	原則として講義科目であるが、場合によってワークショップ形式を取り入れることもある。（実際の授業運営は受講人数によって調整される。）		
	回	内容	
	1	現代社会の多様な問題と「共生」（増田） ★現代社会の問題を意識し、「共生」へと関心を開くこと	
	2	世界はボーダーレスの球面である（増田） ★世界の「つながり」を認識し、自らが生きる「狭い世界」の脈絡とつなげる。	
	3	帝国主義と植民地、世界システム（増田） ★異文化交流の問題を、世界史的視野において理解する。	
	4	文化人類学のアプローチ（増田） ★文化人類学の出現から現在までのアプローチの変遷を理解する。	

授業内容	5	エスノグラフィーを書く：紛争と健康と教育（増田） ★増田によるエチオピアでのフィールドワーク実践例を通して、現代的課題に対する取り組みの事例を知る。	
	6	アフリカにおける紛争の研究：導入（波佐間・増田） ★アフリカにおける紛争の概要と、その理解のパラダイムを知る。	
	7	敵対と友好を揺れ動く民族間関係（波佐間・増田） ★北東ウガンダの牧畜民社会の紛争の事例から民族間関係の動態を理解する。	
	8	マスメディアがむける東アフリカの民族紛争へのまなざし（波佐間・増田） ★マスメディアが広めるアフリカへのステレオタイプを批判する。	
	9	東アフリカ牧畜社会での平和構築と外部介入（波佐間・増田） ★ケニア・カクマ難民キャンプの事例をもとに、平和構築のあり方を理解する。	
	10	社会開発（Development）とは何か？（増田） ★共生的関与のあり方のひとつである「社会開発」の概要と、その歴史的経緯を理解する。	
	11	第二次世界大戦中、戦後の人類学の歴史的背景（佐藤・増田） ★人類学の発展の背景の具体例および、戦中の人類学の目的と戦後のそれに対する批判を理解する。	
	12	世界銀行の中での人類学、人類学者（佐藤・増田） ★世界銀行の開発政策の変遷と中での人類学者の役割を理解し、世界銀行の人類学者らが提唱する国際開発のキーワードとその概念を説明できるようにする。	
	13	開発と人類学：事例紹介(1)（佐藤・増田） ★人類学的アプローチを開発プロジェクトに応用した事例を通して、その特長、特色を理解する。	
	14	開発と人類学：事例紹介(2)およびまとめ（佐藤・増田） ★人類学的アプローチを保健プロジェクトに応用した事例を通して、その特長、特色を理解する。	
	15	全体の総括（増田） ★講義全体の総括を行う。	
	16		
	キーワード	文化人類学、多文化共生、紛争、開発、異文化理解	
	教科書・教材・参考書	教科書はとくに指定しないが、以下のものを参考書として挙げておく。（その他の推薦資料については講義中に適宜紹介する。）  奥野克巳・花淵馨也（編）『文化人類学のレッスン』（学陽書房）、2005年 佐藤 寛、藤掛 洋子編著『開発援助と人類学—冷戦・蜜月・パートナーシップ—』明石書店 2011年	
	成績評価の方法・基準等	毎回のレスポンスペーパー（40%）および試験（60%）によって評価する。	
	受講要件（履修条件）	受講生は以下の点を努力して欲しい。 (1)可能な限り全ての回に出席すること（すべての講義が一続きになるようにシラバスを設計しており、欠席すると理解が追いつかないかもしれない。） (2)社会情勢とりわけ世界の出来事をよく知っていることが望ましい。日常生活において新聞を読むことを習慣とすること（インターネット上の「ネット記事」ではダメである。）	
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660010Q3	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(疑似科学とのつき合い方)		
編集担当教員	武藤 浩二		
授業担当教員名(科目責任者)	武藤 浩二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	武藤 浩二		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）	全学部		
担当教員Eメールアドレス	cosy @nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 美術技術教室 206		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	現代社会に蔓延する各種の疑似科学について学び、それらがなぜ疑似科学と呼ばれるのかを理解することによって、科学的なものの見方を獲得する。 さらに科学の「限界」を把握し、科学と価値の関係の理解を通じて、自律的に生きるための基礎力を養う。		
授業到達目標	科学的なものの見方を獲得する。疑似科学かどうかを判断するための方策を考えることができるようになる。科学と価値の関係について考察できるようになる。		
授業方法（学習指導法）	黑板への番書やスライド、ビデオを用いた講義と、担当教員と受講生による討論を行う。 講義資料や課題用紙はLACSや教員のWEBページを通じて配布する。		
授業内容	講義内容は多岐にわたるので、以下のように各教員がテーマに基づいて講義を行う。 回 担当者及びテーマ 01 全教員「開講のあいさつ：現代教育に欠けたもの」 02 武藤浩二「マイナスイオンと健康」 03 武藤浩二「微生物と放射線の疑似科学」 04 武藤浩二「代替医療」 05 福山隆雄「水からの伝言」 06 福山隆雄「血液型と性格」 07 福山隆雄「デマの拡がり」と都市伝説」 08 全体討論会#1：第1～7回の講義について全教員・学生で討論 09 小西祐馬「社会調査のリテラシー：統計データとの正しい接し方」 10 小西祐馬「乳幼児の教育について：早期教育の問題点」 11 安部俊二「蔓延する学位商法（ディプロマ・ミル）」 12 安部俊二「裁判と〈科学〉：血液型とDNA鑑定」 13 山岸賢一郎「『昔はよかった』を考える」 14 山岸賢一郎「信じること／疑うことを考える」 15 全体討論会#2：講義全体について全教員・学生で討論 ※各教員の担当回及びテーマは変更する場合がある		

キーワード	科学, 疑似科学, 前科学, 宗教の歴史, 認識論, 感性, 法医学, 大学偽装
教科書・教材・参考書	資料：長崎大学教育学部「疑似科学とのつきあいかた」研究会編『疑似科学とのつきあいかた：教師を目指す皆さんへ』 http://hdl.handle.net/10069/23093 参考書：大村政男『新訂 血液型と性格』（福村出版），左巻健男『水は何にも知らないよ』（ディスカバートゥエンティワン），安斉育郎『科学と非科学との間』（かもがわ出版），伊勢田哲治『疑似科学と科学の哲学』（名古屋大学出版会），池内了『疑似科学入門』（岩波新書），菊池誠・松永和紀・伊勢田哲治・平川秀幸『もうだまされないための「科学」講義』（光文社新書），菊池聡・谷口高士・宮元博章編『不思議現象 なぜ信じるのか』（北大路書房），庄司和晃『科学的思考とは何か』『科学ばかり主義の克服：未来の教育学のための人間研究』『人はなぜオカルトに魅かれるのか』（明治図書），南郷継正『弁証法・認識論への道』（三一書房），等
成績評価の方法・基準等	講義テーマへの積極的な取り組みを重視する立場から，最終課題レポート（50%），討論を含む講義への貢献度および各教員が課す「小レポート」の成績（50%）で総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	講義情報については下記URLを参照のこと： http://tech.edu.nagasaki-u.ac.jp/muto/lectures_j.html





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660010Q4	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(宗教学)		
編集担当教員	滝澤 克彦		
授業担当教員名(科目責任者)	滝澤 克彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	滝澤 克彦		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-15		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	takizawakatsuhiko@gmail.com		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>「進化」という発想が世界、とりわけ宗教と社会科学に与えた影響を概観することによって、近現代社会を成り立たせている諸条件の一端について論じる。「宗教」と「進化」というキーワードを通じて近代諸科学の萌芽についても触れるため、宗教学のみならず文理を越えた科学史に関連する授業となる。</p>		
授業到達目標	<p>(1) 進化論の登場とその時代的背景、それが宗教や学問に与えたインパクトについて理解し、説明できるようになる。 (2) 19世紀以降の社会科学における進化論の影響について、その概略を説明できるようになる。 (3) 宗教と進化論の歴史的関連性に対する理解を踏まえて現代世界の社会的諸事象について分析できるようになる。</p>		
授業方法（学習指導法）	<p>各回で以下の授業内容に示された特定のテーマを採り上げ講義形式の授業を行う。また、毎回の授業の終了時に、講義内容に関する簡単なアンケートを実施し、場合によっては次回講義の冒頭で補足を行う。その他にも状況に応じて、適宜討論や質疑の時間を設ける。</p>		
	<p>進化論が近現代社会に与えた影響は多岐にわたるが、宗教に与えた衝撃はとりわけ甚大なものであった。進化論は、かつて神の領域にあった世界に対する知の全てを、完全に人間のものにしてしようとする近代的な試みの象徴となったからである。 本講義では、まず進化論の登場とその時代的背景、さらにそれが社会や近代諸科学に与えたインパクトについて考察する。例えば、進化思想は「社会進化論」という形で社会科学にも大きな影響を及ぼし、言語学や社会学などに革新をもたらし、宗教学や文化人類学といった新たな学問領域を生み出した。授業では、その思想的構造をドイツ観念論や社会主義思想との関係などに触れながら整理する。 最後に、現代の進化論争と宗教的原理主義の関係など、「進化」をめぐる現代的問題に触れながら、現代社会における「宗教と進化をめぐる諸問題」の位置と重要性を指摘する。</p>		
	回	内容	
	1	はじめに—宗教と進化をめぐる諸問題	



授業内容	2	人間観の歴史の変遷
	3	「生命」をめぐる科学の誕生
	4	ダーウィン進化論の登場
	5	ダーウィンを取り巻く宗教的状況
	6	ダーウィンの人間論
	7	「進化」の人間社会への適用
	8	社会学の誕生と進化論
	9	宗教学と進化論
	10	言語学と系統樹
	11	アメリカにおける進化論の受容
	12	20世紀における社会進化論の展開
	13	原理主義の登場と創造論・ID論
	14	社会生物学とミーム論
	15	まとめ—現代社会における宗教と進化
	16	定期試験ではなくレポートでの評価のためなし
	キーワード	宗教、進化論
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。参考文献については授業中に適宜指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業への積極的参加（授業ごとのアンケート提出など）50%、学期末レポート50%	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660010Q5	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(破壊事故とヒューマンファクタ)		
編集担当教員	勝田 順一		
授業担当教員名(科目責任者)	勝田 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝田 順一		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-13		
対象学生（クラス等）	No.3 安全で安心できる社会		
担当教員Eメールアドレス	katsuta@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部 1号館 5階 教官・ゼミ室504		
担当教員TEL	095-819-2599		
担当教員オフィスアワー	基本的には講義終了後講義室，またはmailで受け付ける。研究室に在室中は随時受け付ける。		
授業の概要及び位置づけ	<p>“ものづくり”は、建造するものが壊れないように、要求される性能を十分に発揮できるようにする必要がある。ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。</p> <p>講義では、様々な学部にも所属し、将来いろいろな分野に進む学生を対象に、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。</p> <p>さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっているとの多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験させ、人のミスを防ぐための安全確保策の考え方について紹介することを目的とする。</p>		
授業到達目標	この講義によって、実際の「ものづくり」に携わらなくても、新聞等での事故報道に対する理解が深まること、学生の身近な生活の中で利用可能なヒューマン・エラー対策の基礎的考察ができることを到達目標とする。		
授業方法（学習指導法）	講義は、パワーポイントによる座学での解説とビデオでの事例の視聴によって行う。自主学習としてレポートを課す。また、後半のヒューマン・ファクタの項目では、学生自身による体験を行う。 講義中の受講態度や遅刻については、特に成績評価に反映させるので、真摯な態度での受講を求める。		
	<p>“ものづくり”の手順，“もの”が壊れる原因について講義した上で、破壊事故の事例をビデオで視聴する。</p> <p>事例によっては、講義室で簡単な実験で事故原因を体験する。</p> <p>事故には、個人の知識不足や不注意だけでなく、ヒューマン・ファクタや組織の原因が大きく影響することを理解するために、簡単なヒューマン・エラーを起こす体験を行う。</p> <p>これらのことによって、誰でもが、一生懸命やっても、優秀であっても、陥る可能性があるミ</p>		

授業内容	<p>スについて,実態と対策を考える。</p> <p>第 1 回 講義の概論, 講義の目的,"ものづくり"の成果  第 2 回 "ものづくり"の成果と破壊事故分析  第 3 回 力に対する材料の限界, 破壊とは  第 4 回 最近の事故例における発生の背景  第 5 回 事故例と事故分析  第 6 回 工学的安全システムの有効・無効  第 7 回 "ものづくり"における『安全』とは  第 8 回 "ものづくり"における安心と市民の『安心』とは  第 9 回 技術者の責任と市民の責任  第 10 回 人が犯すミスとその背景, および体験  第 11 回 想定される失敗と想定されない失敗, および体験  第 12 回 思い込みと錯覚による安全喪失  第 13 回 外部情報と脳の受容情報  第 14 回 人の理解と脳の理解, その行動  第 15 回 安心文化の醸成のためには</p>
キーワード	破壊事故, 医療事故, 組織事故, 安心・安全, ヒューマン・ファクタ, 脳科学, 認知科学
教科書・教材・参考書	教科書は用いず, 教員作成の講義資料(プロジェクト), ビデオ, 配布資料, 実験資料によって行う。 必要に応じて, 参考文献を講義中に紹介する。
成績評価の方法・基準等	提示されたテーマに対する自身で考えたことを主とするレポートのみによって100%評価する。定期試験は実施しない。未提出の課題やレポートがある場合は, 不合格とする。課題レポートでは, 自分自身の多面的な考察, 意見, 感想のみを評価し, 講義内容を記した部分は評価対象外とする。レポートでの得点で合格に達した者については, 受講態度や自主学習を考慮して, 成績を報告する。
受講要件(履修条件)	欠席は認めず, 全回出席を原則とする。やむを得ない理由がある場合のみ, 個別指導を行う。なお, 高等学校までの物理学の受講の有無は問わない。受講学生数は, 最大50名とする。
備考(URL)	
学生へのメッセージ	準備は必要ないが, 講義後のレポート作成に重点をおくことを求める。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660010Q6	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(英語で学ぶオランダと西欧の文化)		
編集担当教員	山下 龍		
授業担当教員名(科目責任者)	山下 龍		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山下 龍		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生（クラス等）	経済学部・教育学部・水産学部・薬学部		
担当教員Eメールアドレス	noboruy@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	言語教育研究センター		
担当教員TEL	095-819-2080		
担当教員オフィスアワー	講義の前後		
授業の概要及び位置づけ	日本とオランダとの交流が江戸初期から始まり、その交流が現在まで400年以上続いています。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、西欧の歴史的・文化的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の習得と文化理解を目的とします。現在の国際社会において公用語である英語で講義を提供します。		
授業到達目標	英語でオランダと西欧の歴史と文化、または、日蘭交流についての基本的な知識を習得します。		
授業方法（学習指導法）	講義形式 この講義の為に作成した資料や視聴覚教材(Powerpoint)を利用して、世界史が得意ではない学生にも、より分かりやすく、オランダと西欧の文化と歴史を紹介します。		
	ローマ時代から現在までの歴史の出来事を説明しながら、オランダと西欧の発展を理解させます。オランダを知ることで、西欧の文化の発展も理解することができます。		
	回	内容	
	1	ローマ帝国時代 西欧でのキリスト教の布教	
	2	カール大帝とカロリング（フランケン）帝国 十字軍 オランダ語文学の誕生	
	3	ホーランド州の発展 中世末期の危機 北ヨーロッパのハンザ貿易	
	4	スペインとポルトガル、大航海時代 エラスムスとルネサンス カール5世と神聖ローマ帝国	

授業内容	5	マルティン・ルターとプロテスタントの宗教革命 オラニエ公ウィレム1世とオランダの独立	
	6	ネーデルランデン7州連邦共和国 15・16世紀の美術	
	7	オランダ東インド会社の創立 日蘭交流、平戸・出島	
	8	オランダの黄金時代 17世紀の美術	
	9	奴隷制 啓蒙思想時代とフランス革命 ナポレオン時代	
	10	オランダ王国 ベルギーの独立	
	11	産業革命 年少労働 女性権利 印象派とフィンセント・ファン・ゴッホ	
	12	第一次世界大戦 1930年代の世界恐慌 De Stijlの美術	
	13	第二次世界大戦 冷戦時代 20世紀のオランダ	
	14	現在のオランダ 宗教と伝統・祭り・自転車の王国・など	
	15	現在のオランダ 教育とスポーツ・政治・食べ物とお菓子・など 講義の総括	
	16	定期試験	
	キーワード	英語・歴史・国際理解・比較文化・日蘭交流・蘭学・文化	
	教科書・教材・参考書	教材・プリント教材 毎回配布します	
	成績評価の方法・基準等	成績評価は、定期試験50%、出席・授業態度40%、英語でのレポート（発表）10%	
	受講要件（履修条件）	全回出席が原則	
備考（URL）			
学生へのメッセージ	英語での講義を受ける抵抗もあと思いますが、講義の内容をしっかりと聞き、渡された教材を予習・復習すれば、英語能力はアップし、オランダや西欧の文化と歴史を広く、楽しく理解できるようになります。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660010Q7	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(日本語と表現)		
編集担当教員	鈴木 慶子		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 慶子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 慶子, 大森 アユミ		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-12		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	keiko-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部514研究室		
担当教員TEL	095-819-2302		
担当教員オフィスアワー	火VI		
授業の概要及び位置づけ	日本語表現の特徴を多角的に吟味し、言語力を深める。		
授業到達目標	<p>1) 自分自身の、言語によるコミュニケーション力の程度を客観的に認識することができる。(①⑫)</p> <p>2) 固有の状況に対して、それぞれの立場の意図を析出することができる。(⑬)</p> <p>3) 固有の状況に対して、意思疎通のための言語表現を想起することができる。(⑤)</p> <p>4) 日常生活における言語によるコミュニケーションが果たす役割に関して理解し、吟味したコミュニケーションを行使できる。(③⑤⑫⑬)</p>		
授業方法（学習指導法）	問題に基づいたグループ学習とその結果の発表 → 質疑応答 → 学習報告書の提出		
	回	内容	
	1	受講基礎調査 グループ編成	
	2	受講基礎調査をふまえて コミュニケーション力の自己診断	
	3	ケーススタディ1-1 「別れの言葉」(レトリックを学ぶ) モデルケースを解読する	
	4	ケーススタディ1-2 「別れの言葉」(レトリックを学ぶ) グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)	
	5	復習	
	6	ケーススタディ2-1 「交渉の言葉」(待遇表現を学ぶ) モデルケースを解読する	

授業内容	7	ケーススタディ2-2 「交渉の言葉」(待遇表現を学ぶ) グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	8	復習
	9	ケーススタディ3-1 「言葉の差別」(性差) モデルケースを解読する
	10	ケーススタディ3-2 「言葉の差別」(地域差) グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	11	復習
	12	ケーススタディ4-1 「親切の言葉」(相手にあわせて) モデルケースを解読する
	13	ケーススタディ4-2 「親切の言葉」(相手にあわせて) グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	14	復習
	15	言語によるコミュニケーションの再定義
	16	試験
キーワード	日常生活、文字言語、音声言語	
教科書・教材・参考書	『ケータイを持ったサル』 正高信男著 中公新書 『ウェブ人間退化論』 正高信男著 PHP研究所 『コミュニケーション力』 斉藤孝著 岩波新書 『コミュニケーション力を引き出す』 平田オリザ著 PHP新書	
成績評価の方法・基準等	3回の欠席で失格。12回以上出席の場合に、下記で評価する。60点以上で合格とする。  プレゼンテーション、質疑応答 [10%] 個人レポート [20%] グループレポート(学習報告書) [40%] 試験 [30%]	
受講要件(履修条件)	個人で行うこととグループで行うことの両方ができること。	
備考(URL)		
学生へのメッセージ		





シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名	主担当教員	対象年次	学期	曜日・校時	開講期間
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660030Q1	●言語と芸術(日本の言語と文化) <span style="background-color: #e0ffe0;">和</span> <span style="background-color: #e0ffe0;">E</span>	池田 幸恵	2年,3年,4年	前期	水 5	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660030Q2	●言語と芸術(芸術と文化) <span style="background-color: #e0ffe0;">和</span> <span style="background-color: #e0ffe0;">E</span>	堀内 伊吹	2年,3年,4年	後期	水 5	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660030Q3	●言語と芸術(芸術) <span style="background-color: #e0ffe0;">和</span> <span style="background-color: #e0ffe0;">E</span>	中川 泰	2年,3年,4年	前期	金 3	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660030Q4	●言語と芸術(芸術) <span style="background-color: #e0ffe0;">和</span> <span style="background-color: #e0ffe0;">E</span>	福井 昭史	2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660030Q5	●言語と芸術(文字とことば) <span style="background-color: #e0ffe0;">和</span> <span style="background-color: #e0ffe0;">E</span>	鈴木 慶子	2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660030Q6	●言語と芸術(音楽と表現) <span style="background-color: #e0ffe0;">和</span> <span style="background-color: #e0ffe0;">E</span>	西田 治	2年,3年,4年	後期	火 3	～

[戻る](#)

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660030Q1	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(日本の言語と文化)		
編集担当教員	池田 幸恵		
授業担当教員名(科目責任者)	池田 幸恵		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	池田 幸恵		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-22		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	yu-ikeda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	火曜日14:30-16:00		
授業の概要及び位置づけ	さまざまな時代の言語資料を取り上げ、そこに見られる日本語の諸問題を考察することを通して、日本語・日本文化に対する理解を深める。		
授業到達目標	日本語・日本文化の特徴について説明することができる。 文学作品をさまざまな視点から読み、それを自分の言葉で伝えることができる。 日本語・日本文化の歴史的な変遷について理解し、それを現在の身近な問題と結びつけて考えることができる。		
授業方法（学習指導法）	毎回、次回の授業に関する課題を出し、講義中に解説を行う。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	日本の文字（1）	
	3	日本の文字（2）	
	4	日本の文字（3）	
	5	奈良時代の言語資料（1）	
	6	奈良時代の言語資料（2）	
	7	平安時代の言語資料（1）	
	8	平安時代の言語資料（2）	
	9	平安時代の言語資料（3）	
	10	院政・鎌倉時代の言語資料（1）	
	11	院政・鎌倉時代の言語資料（2）	
	12	室町時代の言語資料（1）	

	13	室町時代の言語資料 (2)
	14	江戸時代の言語資料 (1)
	15	江戸時代の言語資料 (2)
	16	テスト
キーワード	日本語 日本文学 漢字	
教科書・教材・参考書	プリントを配布する。	
成績評価の方法・基準等	毎回の課題に対する準備内容50%、定期試験50%	
受講要件 (履修条件)		
備考 (URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660030Q2	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(芸術と文化)		
編集担当教員	堀内 伊吹		
授業担当教員名(科目責任者)	堀内 伊吹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	堀内 伊吹		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-22		
対象学生（クラス等）	主対象、1年~4年		
担当教員Eメールアドレス	horiuchi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部音楽棟2階206（改修工事の場合は変更します）		
担当教員TEL	095\819-2343		
担当教員オフィスアワー	水曜日 6時間目		
授業の概要及び位置づけ	長崎の芸術文化活動の実態を概観し、実際に文化施設に出かけ、芸術鑑賞を行う。		
授業到達目標	音楽文化を取り巻く状況が理解でき、実際の演奏会を鑑賞し、生の演奏に触れる喜びを感じ取ることができる。		
授業方法（学習指導法）	視聴覚機器を活用して、またその分野のゲストをお迎えしての講義と文化施設に出かけての演習。		
授業内容	回	内容	
	1	この授業の進め方、ガイダンス	
	2	「長崎の文化活動について」	
	3	「長崎の音楽文化活動の現状」	
	4	「文化ホールに出かけ、実際にコンサートを鑑賞しよう」	
	5	「音楽文化活動としての音楽祭」	
	6	「美術と音楽」ゲストスピーカー、米田館長をお迎えして	
	7	「マスメディアと文化」ゲストスピーカー、市原隆靖先生をお迎えして	
	8	「美術と音楽、そして芸術」	
	9	「長崎の歴史と文化」	
	10	「長崎の歴史と文化」ゲストスピーカー、大堀館長をお迎えして	
	11	「音楽芸術に親しむ方法」	
	12	「クリスマスの音楽」	
	13	「文化ホールに出かけ、実際にコンサートを鑑賞しよう」	

	14 「長崎の音楽活動、その行方」
	15 「人生の友としての舞台芸術」
	16 (予備)
キーワード	音楽文化、文化ホール、自主文化事業、音楽祭
教科書・教材・参考書	その都度指示します
成績評価の方法・基準等	推薦する文化施設訪問から2つを選択し、自分の意見を交えた芸術体験レポートを提出。レポートによる評価を行う。
受講要件（履修条件）	心を静めて芸術鑑賞ができること
備考（URL）	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660030Q3	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(芸術)		
編集担当教員	中川 泰		
授業担当教員名(科目責任者)	中川 泰		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中川 泰		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生（クラス等）	教育・経済・薬学・水産学部		
担当教員Eメールアドレス	nakagawa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部美術技術教室209-1		
担当教員TEL	095-819-2351		
担当教員オフィスアワー	月12：10～12：40		
授業の概要及び位置づけ	○美術における表現の喜びや感動を学ぶ ○全学モジュール科目「13-04教育と社会」の選択科目（モジュールII）		
授業到達目標	1.日常的な縛りから開放される人間の意義を説明できる 2.身近な環境との出会いや交流を実現することができる 3.制作を通して自由な発想と多様な表現方法を獲得する		
授業方法（学習指導法）	○表現と鑑賞の相互関係を基にし、実技を絡めながらの講義形式で行う ○実技については個人制作、グループに分かれての共同制作も実施する		
授業内容	回	内容	
	1	美術表現の意義と役割	
	2	美術表現の原点	
	3	現代美術の魅力	
	4	非現実的キャラクター（1）	
	5	非現実的キャラクター（2）	
	6	非現実的キャラクター（3）	
	7	作品鑑賞（1）	
	8	デジカメアート（1）	
	9	デジカメアート（2）	
	10	デジカメアート（3）	
	11	作品鑑賞（2）	
	12	コラージュによる不思議な世界（1）	

	13 コラージュによる不思議な世界（2）
	14 コラージュによる不思議な世界（3）
	15 美術の可能性を求めて
	16
キーワード	現代美術、デザイン、創造、セルフエスティーム
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない 参考書については適宜紹介する
成績評価の方法・基準等	提出物〔作品〕（40%）、提出物〔レポート〕（30%）、受講態度〔積極的な参加〕（30%）
受講要件（履修条件）	実技を実施するので定員は50名以内 1.原則として全回出席することを単位認定の要件とする 2.問題意識をもって受講してほしい 3.材料用具は自己負担であり、準備物は不可欠である。また、制作に必要な時間は個人差があり、作品完成のために時間外での制作が必要である
備考（URL）	
学生へのメッセージ	準備・事前学習 ○美術に関心を持ち、楽しみながら学ぶ習慣を日頃からつけておくこと ○授業のなかで適宜、具体的な内容について指示する





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660030Q4	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(芸術)		
編集担当教員	福井 昭史		
授業担当教員名(科目責任者)	福井 昭史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福井 昭史		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	a-fukui@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部音楽棟3階		
担当教員TEL	095-819-2342		
担当教員オフィスアワー	授業等で不在が多く時間の指定ができないので、在室時ならいつでも		
授業の概要及び位置づけ	音楽を取り上げ、教育における芸術の役割について理解することを目標とする。音楽が教育においてどのような役割を果たしているのか、人間と音楽との関わりなどについて考察することを通して理解を深める。また、学校教育における音楽教育や音楽活動の意味を考察する。		
授業到達目標	文化としての音楽、音楽と人間の関係、音楽教育について理解する。		
授業方法（学習指導法）	講義によって獲得した知識などをもとに、与えられた課題を考察する。		
授業内容	回	内容	
	1	"音楽の感受と鑑賞（1）曲想の感受" 音楽の表す情景を想像する活動	
	2	"音楽の感受と鑑賞（2）要素の感受" トルコ行進曲のリズムとウィーン古典派の音楽	
	3	"音楽の感受と鑑賞（3）様式の感受・時代的特徴" バロック、古典派、ロマン派の協奏曲の形式	
	4	"音楽の感受と鑑賞（4）様式の感受・地域的特徴" "リズムの特徴、スペイン・ヘミオラのリズム"	
	5	〔課題に対する討論〕人は音楽をどのように感じ取り理解するのか。音楽教育は何をするべきなのか。	
	6	"人間と音楽（1）生活と音楽" 音楽の起源に関する学説を裏付ける民俗音楽	
	7	"人間と音楽（2）音楽の変化・発展" 生活の変化と芸能の衰退・発展	
	8	"人間と音楽（3）心と音楽" 音楽療法と療法的音楽教育	

	9	〔課題に対する討論〕 人間にとって音楽とは何か
	10	"文化の理解（１）民謡の伝播" 海上交通と歌の伝播
	11	"文化の理解（２）音楽の拡散・伝播" 大陸伝来の楽器と音楽
	12	"文化の理解（３）琵琶の歴史と様式の変化" 琵琶の歴史と各々の表現
	13	"文化の理解（４）三味線の伝来" 三味線の伝来と本土での改良、諸流派の出現
	14	"文化の理解（５）箏の歴史と音楽の近代化" 箏の歴史と西洋音楽の影響
	15	〔課題に対する討論〕 音楽からどのような文化の在り方が理解できるか。
	16	学習のまとめ
キーワード	人間と芸術（音楽）、音楽教育	
教科書・教材・参考書	参考書：「よくわかる日本音楽基礎講座」音楽之友社	
成績評価の方法・基準等	課題に対する討論とその資料（30%）、日常の活動状況（30%）筆記試験（40%）	
受講要件（履修条件）	芸術や文化、教育に対する関心があること	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	人間にとって芸術・音楽とは何なのかという問題意識を持ち、関連する資料を調査しておくこと	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660030Q5	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(文字とことば)		
編集担当教員	鈴木 慶子		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 慶子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 慶子,川越 明日香		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-12		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	keiko-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部514研究室		
担当教員TEL	095-819-2302		
担当教員オフィスアワー	月V		
授業の概要及び位置づけ	日本語表現のうち、文字言語によるものの特徴を多角的に吟味し、言語力を深める。		
授業到達目標	1) 自分自身の「文字とことば」力を客観的に認識することができる。(①) 2) 日本文書の特徴を理解し、実際に書くことができる。(③⑤) 3) 文字言語による日本語表現の特徴を俯瞰することができる。(⑪⑫⑬)		
授業方法（学習指導法）	問題に基づいたグループ学習とその結果の発表 → 質疑応答 → 学習報告書の提出		
授業内容	回	内容	
	1	受講基礎調査 グループ編成	
	2	受講基礎調査をふまえて 「文字とことば」力の自己診断	
	3	ケーススタディ1-1 「手書きと入力」 モデルケースを使った演習	
	4	ケーススタディ1-2 「手書きと入力」 グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)	
	5	ケーススタディ1-3 「手書きと入力」 グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)	
	6	復習	
	7	ケーススタディ2-1 手紙を読む モデルケースを使った演習	
		ケーススタディ2-2 手紙を読む	

	8	グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	9	ケーススタディ2-3 手紙を読む グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	10	復習
	11	ケーススタディ3-1 手紙を書く モデルケースを使った演習
	12	ケーススタディ3-2 手紙を書く グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	13	ケーススタディ3-3 手紙を書く グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	14	復習
	15	文字言語による日常表現の特徴
	16	試験
キーワード	日常生活、文字言語、コミュニケーション	
教科書・教材・参考書	『美しい日本語表現』池田悠子著 双文社 『書字のススメ』石川九揚著 新潮社 『わかりあえないことから』平田オリザ著 講談社現代新書	
成績評価の方法・基準等	3回の欠席で失格。12回以上出席の場合に、下記で評価する。60点以上で合格とする。  プレゼンテーション、質疑応答 [10%] 個人レポート [20%] グループレポート(学習報告書) [40%] 試験 [30%]	
受講要件 (履修条件)	個人で行うこととグループで行うことの両方ができること。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660030Q6	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(音楽と表現)		
編集担当教員	西田 治		
授業担当教員名(科目責任者)	西田 治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西田 治		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-11		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	osamu-n@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館5 1 6		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	昼休み（事前にメールにてアポイントを取ること）		
授業の概要及び位置づけ	音および音楽の表現力・影響力について体験的に理解し、それについて自らの言葉で語ったり書いたりすることができる。また、それを他者に伝え共有することができる。		
授業到達目標	音および音楽の表現力・影響力について体験的に理解し、それについて言葉で語ったり書いたりすることができる。  自らの体験や考えを分かりやすく相手に伝えることができる。		
授業方法（学習指導法）	ディスカッション フィールドワーク 講義 プレゼンテーション ドラミングなど		
	音の風景（サウンドスケープ）について体験的に理解する活動を行う。音楽以前の音そのもの、そして沈黙に焦点を当て、私たちがいかにそれらから影響を受けているかを体験的に理解する。  最終的には、受講生全員で長崎のいい音の風景を選定し、冊子としてまとめ、大学外に対して発信することを目指す。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション グループ分け	
	2	ドラムサークル1 音と沈黙の体験	

授業内容		そしてその言語化
	3	ドラムサークル2 音と沈黙の体験 そしてその言語化
	4	サウンドスケープとは 長崎いい音の風景20選 紹介
	5	フィールドワーク1 長崎いい音の風景20選めぐり
	6	フィールドワーク1の振り返りとシェア
	7	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業1 フィールドワーク2 推薦する場の選定
	8	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 フィールドワーク2の振り返りとシェア
	9	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 フィールドワーク3 推薦する場の選定
	10	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 フィールドワーク3の振り返りとシェア
	11	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 仮決定と検討
	12	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 本決定
	13	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 広報活動 冊子の作成
	14	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 広報活動 冊子の配布
	15	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 総括 活動を通しての学び
	16	サウンドスケープデザインとは何か ――音の風景を言葉で語ることの難しさと楽しさ
	キーワード	サウンドスケープ 音の風景
教科書・教材・参考書	<p>参考文献は以下の通り。</p> <p>サウンドスケープ―その思想と実践 鳥越 けい子 (著) 出版社: 鹿島出版会 (1997/03)</p> <p>サウンドスケープの詩学 フィールド篇 鳥越 けい子 (著) 出版社: 春秋社; A5版 (2008/3/25)</p> <p>音さがしの本 &lt;&lt;増補版&gt;&gt; リトル・サウンド・エデュケーション</p>	

	R.マリー シェーファー (著), 今田 匡彦 (著) 出版社: 春秋社; 増補版 (2009/1/15)  世界の調律 サウンドスケープとはなにか (平凡社ライブラリー) R.マリー・シェーファー (著), 鳥越 けい子 (翻訳) 出版社: 平凡社 (2006/5/10)
成績評価の方法・基準等	・レポート・提出物 70パーセント ・出席・講義への参加度 30パーセント
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	





シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名	和	E	主担当教員	対象年次	学期	曜日・校時	開講期間
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660050Q1	●社会と歴史(社会学)	和	E	南 誠	2年,3年,4年	後期	水 5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660050Q2	●社会と歴史(家族社会学)	和	E	賽漢卓娜	2年,3年,4年	前期	水 5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660050Q3	●社会と歴史(出島の科学)	和	E	中山 守雄	2年,3年,4年	前期	木 3	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660050Q4	●社会と歴史(文学と社会)	和	E	堀井 健一	2年,3年,4年	前期	木 3	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660050Q5	●社会と歴史(環境と社会)	和	E	藤本 登	2年,3年,4年	後期	木 3	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660050Q6	●社会と歴史(国際援助と公的部門の役割)	和	E	加藤 誠治	2年,3年,4年	後期	金 3	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660050Q7	●社会と歴史(文学と社会)	和	E	前田 桂子	2年,3年,4年	後期	火 5	～

[戻る](#)

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660050Q1	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(社会学)		
編集担当教員	南 誠		
授業担当教員名(科目責任者)	南 誠		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	南 誠		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	lsk-minami@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	総合研究棟303		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	事前にメール連絡		
授業の概要及び位置づけ			
授業到達目標	社会学の考え方と方法の習得をととして、現代社会を理解・研究・説明するための力を身につけることができる。		
授業方法（学習指導法）	基本的には、パワーポイントを用いた講義形式による。		
授業内容	回	内容	
	1	イントロダクション	
	2	社会学の確立	
	3	社会学の発想	
	4	親密空間と公共空間	
	5	自己と相互行為	
	6	家族とライフコース	
	7	地域社会と対人関係	
	8	組織と職業	
	9	社会的包摂と排除	
	10	グローバルとナショナル	
	11	エスニシティと境界	
	12	歴史と記憶	
	13	映像で社会学1	
14	映像で社会学2		

	15	映像で社会学3 グループ議論
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	教科書はとくに指定しない。授業のなかで適宜に課題文献を紹介する。	
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業および討論への参加度(20%)	
受講要件(履修条件)		
備考(URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660050Q2	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(家族社会学)		
編集担当教員	賽漢卓娜		
授業担当教員名(科目責任者)	賽漢卓娜		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	賽漢卓娜		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	水曜日4限目		
授業の概要及び位置づけ	社会の基礎単位であり、最も身近な社会集団である家族の基本的な枠組みを学ぶ。その上で、家族の形態や家族規範は社会変容によっていかに変化してきた／変化しているのかに着目する。		
授業到達目標	①社会的な素養が身に付き、「常識」から脱出する見方を習得すること。②比較文化のおよび歴史的な文脈において、家族に関する多様な理解ができることが目的である。		
授業方法（学習指導法）	レジュメやプリントを配布する。講義形式を基本としながら、人数に応じてグループワークを採用する。予習と復習を重視する。		
授業内容	第1回～4回まで、家族の基本的な概念と枠組みを紹介する。第5回～6回、歴史的な文脈における家族の変容を紹介する。第7回～12回、ライフサイクルにおける課題及び危機を紹介する。第13回、多様化する現代の家族のあり方を紹介する。グループディスカッションを経て総括へ導く。		
	回	内容	
	1	家族：さまざまなかたちと文化	
	2	家族の概念と定義	
	3	家族の類型	
	4	家族の機能	
	5	近代家族のあゆみ	
	6	親族と地域生活	
	7	ライフサイクルと家族の危機	
	8	配偶者選択と結婚	
9	家族内の内部構造：役割構造と勢力構造		

	10	離婚
	11	子どもの社会化と親子関係
	12	家族と高齢者
	13	多様化する家族
	14	グループ討論
	15	総括
	16	テスト
キーワード		
教科書・教材・参考書	随時プリントを配布。適宜参考書を紹介。	
成績評価の方法・基準等	評価方法：定期試験70%、ミニレポート、授業への参加度30%	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660050Q3	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(出島の科学)		
編集担当教員	和田 光弘		
授業担当教員名(科目責任者)	中山 守雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中山 守雄, 大山 要, 淵上 剛志		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-11		
対象学生 (クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	m-wada@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	薬学部 5F 医療情報解析学研究室		
担当教員TEL	095-819-2451		
担当教員オフィスアワー	12:00-13:00		
授業の概要及び位置づけ	幕末から明治初期にかけ、出島を通して日本に近代科学・薬学をもたらした先人達、そして現代の日本の科学を先導したノーベル賞受賞者達の努力とその偉業への理解を深めることによって、現在、我々は何をなすべきかを考えるきっかけとする。		
授業到達目標	出島を通して、日本に近代科学・薬学をもたらした人々やその定着に貢献した先達の業績を調査し理解する。そして現在、日本が到達した科学水準を、下村博士をはじめとする日本のノーベル賞受賞者の研究等を通して把握する。		
授業方法 (学習指導法)	座学ではスライドなどの教材を用いて学習項目の概要を説明する。このほか、体験実験、グループディスカッション、などの学習方式を用いて学生の理解を深めるとともに自己学習を促す。さらにプレゼンテーションを課し、学生たちのコミュニケーション力、情報発信力の養成を図る。		
	回	内容	
	1	1回：イントロ 講義概要・評価の説明、班分け、自己紹介	
	2	2回：プレゼンテーションについて プレゼンテーションを行う際の留意点について講義	
	3	2回：出島の化学 1 出島の化学の黎明期～導入・定着期の講義 調査課題の決定	
	4	3回：出島の化学 1 出島の化学の黎明期～導入・定着期に活躍した人物の業績について調査 中間報告	
	5	4回：出島の化学 1 出島の化学の黎明期～導入・定着期に活躍した人物の業績について発表	

授業内容		最終発表	
	6	5回：出島の化学2 長与専齋について講義 調査課題の決定	
	7	6回：出島の化学2 長与専齋について調査 中間報告	
	8	7回：出島の化学2 長与専齋について発表 最終発表	
	9	9回：日本におけるノーベル賞の系譜 ノーベル賞および日本における近年のノーベル賞受賞者の功績を解説	
	10	10回：日本におけるノーベル賞の系譜 日本における近年のノーベル賞受賞者の功績を調査 中間発表	
	11	11回：日本におけるノーベル賞の系譜 日本における近年のノーベル賞受賞者の功績を発表 最終発表	
	12	12回：下村脩博士のノーベル化学賞受賞 下村脩博士のノーベル化学賞受賞について講義+記念館見学	
	13	13回：下村脩博士のノーベル化学賞受賞 下村脩博士のノーベル化学賞受賞について調査 中間発表	
	14	14回：下村脩博士のノーベル化学賞受賞 下村脩博士のノーベル化学賞受賞について発表 最終発表	
	15	15回：発光（蛍光・化学発光）に関する実験 蛍光・化学発光に関する実験	
	16		
	キーワード	近代科学・薬学史、長崎出島、ノーベル賞、下村 脩 博士	
	教科書・教材・参考書	参考書 出島のくすり 長崎大学薬学部編 九州大学出版会	
	成績評価の方法・基準等	積極的授業参加態度(40%)、レポート (40%)、グループ活動の成果(20%)	
	受講要件（履修条件）	課題に対して十分な準備（授業外学習）を行うこと	
備考（URL）			
学生へのメッセージ			





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660050Q4	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(文学と社会)		
編集担当教員	堀井 健一		
授業担当教員名(科目責任者)	堀井 健一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	堀井 健一		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生（クラス等）	「教育と社会II」2年生		
担当教員Eメールアドレス	pericles_kh@yahoo.co.jp		
担当教員研究室	教育学部本館6階611番研究室		
担当教員TEL	pericles_kh@yahoo.co.jp		
担当教員オフィスアワー	火曜日午後		
授業の概要及び位置づけ	<p>主題は西洋の古代ギリシアの歴史です。教養としての古代ギリシアの社会についての知識を学びます。外国の歴史を学ぶのは外国語文献を読むことから始まりますから、皆さんには英語の絵本のようなものを翻訳してもらいます。その作業によって「知ること」に対する態度を養います。翻訳で内容を理解した上で古代ギリシアの社会の特徴を学びます。</p>		
授業到達目標	<p>西洋の古代ギリシアの歴史、社会、文化の特徴を説明できるようにする。英語による歴史叙述を日本語で伝達できるようにする。</p>		
授業方法（学習指導法）	<p>英文翻訳の予習、翻訳文の完成のためのグループディスカッション、古代ギリシア社会の考察を行ないます。</p>		
授業内容	<p>S. Peach &amp; A. Millard, The Greeks, Tulsa, 1990のイラスト世界史のシリーズ本を題材に使います。あらかじめ課題プリントを配布するので翻訳と下調べの予習をしてもらいます。予習の内容を講義時にグループディスカッションしたりクラスで発表してもらいます。5つの主題についてレポートを提出してもらいます。</p> <p>第1回 ガイダンス          第2回 Social structure～翻訳の検討          第3回 社会階層のまとめ          第4回 Democracy in Athens～翻訳の検討1          第5回 Democracy in Athens～翻訳の検討2          第6回 アテネ民主政のまとめ1          第7回 アテネ民主政のまとめ2          第8回 Sculpture～翻訳の検討          第9回 ギリシア彫刻の特徴          第10回 The theatre～翻訳の検討          第11回 ギリシア劇の特徴1          第12回 ギリシア劇の特徴2          第13回 Learning～翻訳の検討          第14回 小テスト、学問のまとめ</p>		

	第15回 古代ギリシア社会についてディスカッション
キーワード	西洋史, 古代社会
教科書・教材・参考書	教科書：P. レベック『ギリシア文明—神話から都市国家へ』創元社。参考書：伊藤貞夫『古代ギリシアの歴史』講談社, 山本茂他『西洋の歴史〔古代・中世編〕』ミネルヴァ書房, N. スパイヴィ『ギリシア美術』岩波書店。
成績評価の方法・基準等	古代ギリシアに関する教養的知識の小テスト（40%）, レポート（50%）, 授業中の課題への良い取り組みや良い発言（10%）
受講要件（履修条件）	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし、やむを得ず（正当な理由で）欠席する場合は、単元に応じた個別指導を行なう。授業外学習に週平均2時間以上を充てること。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660050Q5	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(環境と社会)		
編集担当教員	藤本 登		
授業担当教員名(科目責任者)	藤本 登		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤本 登		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）	医学部、歯学部、工学部、環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	n-fuji@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部技術美術教棟115室		
担当教員TEL	095-819-2360		
担当教員オフィスアワー	8:00-8:45、昼休み		
授業の概要及び位置づけ	地球環境問題やエネルギー問題など現代社会が抱える問題について、個人の価値観のみならず、社会的な意志決定の方法や課題を認識し、個人の有り様を問い直す講義である。		
授業到達目標	環境やエネルギー問題に対して、自ら課題を認識し、社会で変革するための手法を説明できる。また、その変革に関わるための態度や実践力を養い、持続可能な社会作りに貢献するための自身の役割を説明できる。		
授業方法（学習指導法）	一般的な講義と参加型・体験型学習を織り交ぜながら実施します。また個人ワークと班ワークでの活動があります。そして適宜出される課題や自ら設定した課題を行ってまいります。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション（目的、学習方法、ルールなど） アイスブレイキング	
	2	持続可能な社会を目指して！ 地球環境問題と私たちの暮らし （自宅の電力・水・ガスの消費量を調べてくること）	
	3	地球環境問題と私たちの社会	
	4	地球温暖化（科学的な思考）	
	5	地球温暖化と社会・個人（対策の検討）	
	6	地球温暖化と社会・個人（実践の検討）	
	7	ごみと社会	
	8	水と社会	
	9	大気汚染と社会	
	10	エネルギー問題の最新動向（世界）	

	11	エネルギー問題の最新動向（日本）
	12	これからのエネルギー社会を考える
	13	未来の発電構成を考える
	14	放射性廃棄物を考える
	15	総合討論・持続可能な社会と私
	16	
キーワード	環境問題、エネルギー問題、ガバナンス、価値観、意志決定	
教科書・教材・参考書	参考書：環境白書，エネルギー白書，刀根薫「ゲーム感覚意思決定法 AHP入門」など、講義資料はLACSに掲載します。	
成績評価の方法・基準等	各課題の評価（50%） 最終レポート・発表（30%） 講義におけるディスカッション等での貢献度（20%）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660050Q6	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(国際援助と公的部門の役割)		
編集担当教員	加藤 誠治		
授業担当教員名(科目責任者)	加藤 誠治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	加藤 誠治		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生（クラス等）	全学年		
担当教員Eメールアドレス	s-kato@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	国際連携研究戦略本部・国際健康開発研究科		
担当教員TEL	095-819-7895		
担当教員オフィスアワー	24時間		
授業の概要及び位置づけ	戦後賠償とリンクして始まった日本の国際援助(ODA)の歴史と現状、その仕組みを概観し、日本の戦後史の一面を理解することを目的とする。加えて、国際社会の政治経済、開発援助の歴史を追うことで、現在の国際関係を理解する一助とすることも目的とする。		
授業到達目標	日本政府及び国際機関の公的部門が主体となる、インターナショナル及びグローバルな活動の現状を理解する。		
授業方法（学習指導法）	講義		
授業内容	日本の現代史の教育課程ではほとんど取り上げられていないが、現実の国際社会では常に重要なテーマとなっている開発援助、紛争、貧困などのテーマについて、その歴史的、理論的な展開を概観する。		
	回	内容	
	1	シラバス、学習評価等について説明し、イントロの講義を行う。	
	2	ODA予算、仕組み	
	3	戦後日本が受けた援助、戦後の復興と国際援助の黎明期（その1）	
	4	戦後日本が受けた援助、戦後の復興と国際援助の黎明期（その2）	
	5	日本人の海外移住と国際協力	
	6	援助の潮流1950～1960年代	
	7	中国援助（その1）	
	8	中国援助（その2）	
	9	国際協力に参加するとは～JOCVの活動から学ぶこと～ [特別講師：米村淳平]	
10	国際協力に参加するとは（その2） [特別講師：古泉志保]		

	11	冷戦終了後の世界～地域紛争と人間の安全保障、国連の役割～
	12	アフガニスタン援助
	13	債務救済、ミレニアム開発目標と貧困削減
	14	現在の国際援助～公的援助とNGOs、民間投資と貿易～
	15	これからの国際援助と世界の趨勢
	16	最終考課
キーワード	開発経済、経済成長、貧困、ODA、NGOs、ミレニアム開発目標	
教科書・教材・参考書	適宜参考書を紹介する。	
成績評価の方法・基準等	毎講義後の課題簡易レポート、出席率、最終回の筆記試験	
受講要件（履修条件）	学生であること。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660050Q7	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(文学と社会)		
編集担当教員	前田 桂子		
授業担当教員名(科目責任者)	前田 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	前田 桂子		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	kmaeda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部棟624研究室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	現代日本語の音韻、文法、語彙、方言などに関する知識を修得し、身近な日本語を探究する態度を育てる。		
授業到達目標	身近な日本語の成り立ちについて理解を深め、その理由を自ら探究し、自分の言葉で説明する能力を身に付ける。		
授業方法（学習指導法）	講義		
授業内容	回	内容	
	1	世界の中の日本語	
	2	文字について① 漢字	
	3	文字について② 仮名	
	4	語彙について① 和語、漢語、外来語	
	5	語彙について② 類義語、複合語	
	6	標準語、俗語、若者語	
	7	らしさの表現	
	8	待遇表現の意義	
	9	変化する文法①	
	10	変化する文法②	
	11	国語史① 音韻の歴史	
	12	国語史② 文体の歴史	
	13	方言①	

	14	方言②
	15	単語の意味変化
	16	総括
キーワード	日本語 ことば 変化 歴史 地域	
教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等	授業中に課すレポートおよび期末試験	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



---

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.





シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・校 時	開講期間
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660070Q1	●法と政治(私たちと法)	和	E	江口 勇治	2年,3年,4年	集中(前)	時間割外	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660070Q2	●法と政治(ジェンダーと法)	和	E	植木 とみ子	2年,3年,4年	後期	水 5	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660070Q3	●法と政治(核軍縮の法と政治)	和	E	広瀬 訓	2年,3年,4年	後期	木 4	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660070Q4	●法と政治(資源・エネルギー問題への取り組み)	和	E	山下 敬彦	2年,3年,4年	前期	木 3	～

[戻る](#)

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	集中（前	曜日・校時	時間割外
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660070Q1	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(私たちと法)		
編集担当教員	江口 勇治		
授業担当教員名(科目責任者)	江口 勇治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	江口 勇治		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス	guchiyu@human.tsukuba.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	授業のねらいは、日常生活において求められる法・ルール・きまりの意義やその指導の在り方を考えることから、今求められるリーガル・リテラシーの基礎について、「法教育」の側面から実際にとらえることである。なお授業者は法律学の専門家ではなく、小・中・高校での法教育を訴えてきた教育学の研究者でありその角度から「法」を考える。		
授業到達目標	法律学の素人であっても、法・ルール・きまりに向き合うことを理解し、人々とともに規範を共有することの意義と限界を考えられることをこの授業のもっとも基礎的な到達点とする。あわせて一層、法・司法などへの専門的な興味・関心が高まることもねらいたい。		
授業方法（学習指導法）	アメリカの小学校で作られたテキストを利用して、「正義・公正」「責任」「権威」「自由」「幸福」などの観念を、日常に生活の実態に移して実際的に考えさせる。授業では設問を用意し、それについて対話するという形式を随時取り入れた。また「法的な見方や考え方」の模擬授業も可能なら計画する。		
	集中講義のため、講義をおおよそ四つもパートにわけて、授業内容にメリハリをつける。具体的には、①では「法的な見方や考え方」に向き合うことを共有する講義を実施する。②では、「私たちと法」のテーマとして「正義」「責任」「権威」「自由」について、日常での設問からその実際をそれぞれに考えさせる。③では、そこで共に議論された内容をより深めるために、法的な見方や考え方としてとらえさせる。④では互いに確認されたことを「子供たちに教育する」という視点に立って模擬的な授業をつくりあげる。なおこれまで実施してきた法教育の取り組みや授業の実際についてビデオ等を視聴することも設定する。		
	回	内容	
	1	第一回 オリエンテーション 「私たちと法」の科目の意義と「法教育」についての説明を行う。	
	2	第二回 法教育のこれまでの取り組みと法曹三者の法教育への関与等についての概略を示すとともに、新学習指導要領での法教育の位置づけを講義する。	
	3	第三回 アメリカのテキストを参考に「正義」「責任」を法や司法の側面から考えるこ	

授業内容		との意義を理解するとともに、その共有の仕方等について考える。	
	4	第四回 同様に「権威」「自由」のテーマをもとに話し合い、あわせて我が国の子供たちが学ぶべき「公正」「幸福」「正義」などについて学校教育の側面からとらえることの意義を講義する。	
	5	第五回 「正義」のもとで「私たちと法」の論点から、日常的にな事例を設定し、その問題への向き合い方や解決方法等を互いに話し合い、整理することを通じて「正義」や「公正」の日常的な価値を法とのかかわりからとらえる。	
	6	第六回 『責任』をとらえることの意味を同じように「日常性」から考える設問を設定し、それについての論議を通じて、法的な『責任』とその他の『責任』の異同について互いに話し合う。	
	7	第七回 「権威」「自由」について、政治的な見方、経済的な見方、法的な見方からそれぞれの社会的価値を考えるとともに、私たちの生活においてそれぞれの有効性を、個別具体的な事例をもとに話し合い、法的な見方の特徴を共有する。	
	8	第八回 以上の議論整理の中から重要と思われる具体的な紛争・対立的な構図をより実際にお互いに話し合い、問題の整理とその解決に向けた取り組みを行う。なおここではおもに学校での教育や教材を想定して、その題材を設定する。	
	9	第九回 第八回と同じ形式で、具体的な問題をもとに、法的な思考をとらえることの意義を私たちの生活との関わりから考える。なお公的なことと私的なことの違いについての理解を深める工夫を合わせて行う。	
	10	第十回 小・中・高校のそれぞれの学校段階を想定して、「私たちと法」ということで重要と思われる題材や教材をお互いにつくり模擬授業を実施し、その評価を話し合い、その修正を行う。	
	11	第十一回 第十回と同じような活動や作業を実施し、「法」を現代において観念し共有する意義と問題点、限界などを話し合う。	
	12	第十二回 これまでの授業を整理するとともに、法的な事柄を超えて向き合い、物事を進めようとする人々の活動や考え方にも着目して、「私たちと法」の関係を多面的に考えることの大切さを理解する。	
	13	第十三回 法教育の在り方を学校教育ばかりでなく、生涯学習社会の教育の在り方としても考える視点を持ち、日常に生きる人々にとっての法的な見方や考え方の意義や可能性について、教材という形で成果を構想する。	
	14	第十四回 「私たちと法」という観点の持つ意味を、地域的に考え、社会の安心等に資する学び方の方向性を提案する。あわせて国際的にも考える必要性についても話し合い、その論点を整理する。	
	15	第十五回 ある具体的な紛争的な問題を設定し、対話・対審的に議論し、審議することから生まれる法的な見方や考え方の価値を検討する。	
	16	第十六回 具体的な課題に対して、レポートを提出し、文書として論点を整理、保存することの意義を学ぶ。	
	キーワード	法的な見方や考え方 法教育 リーガル・リテラシー	
	教科書・教材・参考書	教科書は用いない。適宜資料を印刷し、配布する。	
成績評価の方法・基準等	授業へ参加・貢献度(30%)、講義での小レポートの評価(20%)、レポート(50%)をもとに、総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
備考(URL)			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660070Q2	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(ジェンダーと法)		
編集担当教員	植木 とみ子		
授業担当教員名(科目責任者)	植木 とみ子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植木 とみ子		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス	tuterrace@kzh.biglobe.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL	092-521-6851		
担当教員オフィスアワー	eメールにて随時受け付けます		
授業の概要及び位置づけ	いまだ男女共同参画が実現していない現代日本社会にあって、ジェンダーバイアスとは何かを見る目を養い、バイアスにとらわれていることで、日本人がいかに精神的、経済的に貴重なものを逃しているかに気づいていただきます		
授業到達目標	すぐにはものの見方、考え方が変わるとは思われませんが、少なくとも身の回りの事象を歴史的大局的に見る訓練をする事により、グローバルスタンダードを持ち、今の日本の閉塞状況を打ち壊すことができるような、自立した大人になるお手伝いをします		
授業方法（学習指導法）	基本的には講義ですが、みなさんに自分で考えていただくために演習形式も取り入れて、できるだけ多く質問を投げかけ、一緒に考えて行きたいと思っています。みなさんには積極的に参画していただきたいと思います		
	<p>「第一部 ジェンダーはどう形成されてきたか（1～5）」では、過去の男女のジェンダー役割とその変遷を振り返ります</p> <p>「第二部 男女共同参画社会形成への道（6～8）」では、国際婦人年をきっかけにした女子差別撤廃から男女共同参画までの世界と日本の歩みを見ます</p> <p>「第三部 いまだ残る問題点（9～14）」では、わが国においていまだ根深くある様々なジェンダーバイアスの実態を知り、そのことがいかに社会問題を引き起こしているかを検証します</p> <p>「第四部 真の男女共同参画社会の実現に向けて（15）」では、ジェンダーバイアスにとらわれない、しなやかな生き方ができるための方策を探ります</p> <p>あらかじめ決まったテキストはありません。毎回プリントを配布しますし、関連した文献を紹介します</p>		
	回	内容	
	1	歴史に見る男女の姿（古代・未開社会と母系制、封建社会における男性優位主義）	
	2	明治から昭和初期の女性（天皇制家族国家体制下での男性と女性、作られた「良妻賢母主義」）	

授業内容	3	戦後の解放（憲法、民法改正の中での女性の地位、女性の社会進出）
	4	高度成長期における男性と女性（マイホーム主義、男女の役割分担の拡大最生産）
	5	世界史での女性差別（ハムラビ法典から近代市民社会成立期まで）
	6	世界的な女性解放の潮流（国際婦人年をきっかけに、「女子差別撤廃条約」登場の背景）
	7	世界の現状（北欧先進諸国の女性たち、開発途上国の女性たち）
	8	日本の取組み（国の「婦人問題企画推進本部」設置から、「男女雇用機会均等法」制定の舞台裏、地域での取組み）
	9	ジェンダーと法制度（憲法における平等保障、皇室典範や民法にいまに残る男系主義）
	10	ジェンダーと政治（政治はだれのもの、日本の女性議員の割合は世界でも超低レベル）
	11	ジェンダーと雇用（女性の平均賃金は男性の半分、女性が働き続けられないワケ）
	12	ジェンダーと福祉・社会保障（女性たちはなぜ子どもを産まないか、主婦の年金は誰が払うの？）
	13	ジェンダーと家族（夫と妻の役割、いま子どもが育っていない！）
	14	ジェンダーと性（リプロダクティブ・ライツ、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント）
	15	新たな生き方の提示（高齢社会は資源の宝庫、一度の人生を悔いなく生きる）
	16	定期試験
	キーワード	
	教科書・教材・参考書	プリント配布、そのつど参考文献を紹介する
成績評価の方法・基準等	授業での積極的発言、毎回の短い感想文、定期試験の成績を総合評価する	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	常に社会の出来事をチェックし、自分との関係を考えること	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660070Q3	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(核軍縮の法と政治)		
編集担当教員	広瀬 訓		
授業担当教員名(科目責任者)	広瀬 訓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	広瀬 訓, 西田 充		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-22		
対象学生（クラス等）	2年次生、教経薬水		
担当教員Eメールアドレス	shirose@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	核兵器廃絶研究センター 2階		
担当教員TEL	内線 2204		
担当教員オフィスアワー	水曜3、4限もしくはアポイントメントによる		
授業の概要及び位置づけ	昨年度モジュールIで学んだ核兵器と国際社会に関する基礎的な知識と理解の上に、核兵器をめぐる国際政治と国際法の、より具体的なトピックを検討することで、核兵器と平和の問題を深く掘り下げて考察することを目的とします。そして、受講する学生一人一人が、現在の国際社会に生きる一人の人間として、「核」という人類の抱える最大の問題の一つと向き合う姿勢を養うことができればよいと考えています。		
授業到達目標	具体的な到達目標としては、①核軍縮をめぐる国際政治、国際法に関する基礎的な事実や概念を正確に理解する、②核兵器をめぐる現実を理解することにより、核兵器と国際社会の持つ特徴を把握する、③核兵器を廃絶するために適切と思われる手段を自分なりに構築する、の三点について、その成果を少なくとも同じ講義を受講している他の学生に対し、説得的に提示できるようになることを期待しています。		
授業方法（学習指導法）	担当教員による講義と、学生からの意見の発表およびグループディスカッションを組み合わせでの授業にする予定です。できるだけ毎回リアクションペーパー等を通して、受講する学生が自分の意見を組み立て、表現する機会を増やしたいと思います。また、実際に外務省で軍縮交渉を担当している方を客員として招聘し、交渉の現実について、生の声を聴くことも予定しています。		
	回	内容	
	1	はじめてに：授業の進め方 ①「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・パワーバランスとは何か ・「抑止」とは何か	
	2	②「核兵器」と「安全保障」 ・「安全保障」とは何か ・伝統的な安全保障観	
		③「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」	



授業内容	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「軍縮」とは何か</li> <li>・「軍備管理」とは何か</li> <li>・「不拡散」とは何か</li> </ul>	
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>④核兵器の削減</li> <li>・国際社会の取組</li> <li>・二国間の取組</li> <li>・地域的取組</li> </ul>	
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤核不拡散条約（NPT）：その1</li> <li>・成立の背景と経過</li> <li>・内容と特徴</li> </ul>	
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥核不拡散条約（NPT）：その2</li> <li>・1995延長会議</li> <li>・再検討プロセス</li> <li>・現状と問題点</li> </ul>	
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦核実験の禁止</li> <li>・部分的核実験禁止条約（PTBT）</li> <li>・包括的核実験禁止条約（CTBT）</li> </ul>	
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧非核兵器地帯</li> <li>・非核兵器地帯とは何か</li> <li>・世界の非核兵器地帯</li> <li>・北東アジア非核兵器地帯提案</li> </ul>	
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨新しい核軍縮の試み</li> <li>・兵器用核分裂性物質生産禁止条約（カットオフ）</li> <li>・核兵器不使用条約</li> <li>・核兵器禁止条約</li> </ul>	
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑩核軍縮と国際人道法</li> <li>・国際人道法とは何か</li> <li>・核兵器は国際法違反か</li> </ul>	
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑪核軍縮交渉の舞台</li> <li>・ジュネーブ軍縮会議（CD）</li> <li>・国連総会および第一委員会</li> <li>・国連軍縮特別総会（SSOD）</li> </ul>	
	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑫核軍縮交渉の現状と問題点（予定）</li> <li>・西田充客員準教授</li> </ul>	
	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑬核軍縮交渉の現状と問題点（予定）</li> <li>・西田充客員準教授</li> </ul>	
	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑭核軍縮交渉と世論</li> <li>・核軍縮交渉と市民</li> <li>・私たちにできること</li> </ul>	
	15	⑮まとめ	
	16	期末レポート提出	
	キーワード	軍縮、不拡散、軍備管理、外交交渉、国際法	
	教科書・教材・参考書	<p>テキスト：特に指定しません。</p> <p>参考書：黒澤 満編著 『軍縮問題入門 第4版』 東信堂  黒澤 満 『核軍縮入門』 信山社  黒澤 満 『核軍縮と世界平和』 信山社  藤田久一 『核に立ち向かう国際法』 法律文化社</p> <p>上記以外に、RECNAのホームページ、特に「市民データベース」には核軍縮に関する主要な情報がまとめられているので、適宜参照してください。</p>	
成績評価の方法・基準等	出席および講義の際の提出物、リアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の40%、期末のレポートが60%になります。		
受講要件（履修条件）			
備考（URL）	<a href="http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp">http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp</a>		
	※講義の進度等により、多少予定が変更になる場合があります。		

学生へのメッセージ

※授業の中だけでなく、教室の外でも核軍縮に関する情報やニュースの収集のような予習を各自が進めることを期待しています。積極的に問題意識を持って授業に臨むことを期待しています。



---

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660070Q4	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(資源・エネルギー問題への取組み)		
編集担当教員	山下 敬彦		
授業担当教員名(科目責任者)	山下 敬彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山下 敬彦, 藤本 登, 嶋野 武志		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-12		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	yamac@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部2号館E405		
担当教員TEL	095-819-2539		
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	日本のエネルギーの特徴と課題や地球温暖化対策推進法, 省エネ法等の関連法規の内容ならびに日本のエネルギー問題への取組みを理解させるとともに, 省エネや地球温暖化防止に取り組む姿勢を醸成させる。		
授業到達目標	日本のエネルギーの特徴と課題を理解させる。また, 日本のエネルギー問題への取組みを理解させる。		
授業方法（学習指導法）	予習課題を基にした討論と解説		
	回	内容	
	1	ガイダンス 科目の概要, 狙い, 位置づけ, 到達目標, 授業の方法, 各単元の到達目標, 評価方法等を理解する。	
	2	I 日本のエネルギー事情 (その1) 日本のエネルギー事情について, その特徴と課題, 日本のエネルギー問題への取組みを理解し, 簡潔にまとめる。	
	3	I 日本のエネルギー事情 (その2) 日本のエネルギー事情について, その特徴と課題, 日本のエネルギー問題への取組みを理解し, 簡潔にまとめる。	
	4	I 日本のエネルギー事情 (その3) 日本のエネルギー事情について, その特徴と課題, 日本のエネルギー問題への取組みを理解し, 簡潔にまとめる。	
	5	I 日本のエネルギー事情 (その4) 日本のエネルギー事情について, その特徴と課題, 日本のエネルギー問題への取組みを理解し, 簡潔にまとめる。	
		I 日本のエネルギー事情 (その5)	

授業内容	6	日本のエネルギー事情について、その特徴と課題、日本のエネルギー問題への取組みを理解し、簡潔にまとめる。
	7	II 地球温暖化対策推進法（その1） 地球温暖化対策推進法について、内容を理解し、簡潔にまとめる。
	8	II 地球温暖化対策推進法（その2） 地球温暖化対策推進法について、内容を理解し、簡潔にまとめる。
	9	II 地球温暖化対策推進法（その3） 地球温暖化対策推進法について、内容を理解し、簡潔にまとめる。
	10	II 地球温暖化対策推進法（その4） 長崎大学における地球温暖化対策について調べ、取るべき行動を理解する。
	11	III 省エネ法（その1） エネルギー使用の合理化に関する法律について、内容を理解し、簡潔にまとめる。
	12	III 省エネ法（その2） エネルギー使用の合理化に関する法律について、内容を理解し、簡潔にまとめる。
	13	III 省エネ法（その3） エネルギー使用の合理化に関する法律について、内容を理解し、簡潔にまとめる。
	14	III 省エネ法（その4） 長崎大学の省エネ対策について調べ、省エネ方法について理解する。
	15	テスト・レポートのまとめ テストによる知識の定着の確認を行う。また、資源・エネルギー問題への取組みのまとめを完成させる。
	16	総括 講義の評価を行い、改善点等について議論する。
	キーワード	資源、エネルギー問題、温暖化対策
	教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。教材はPDFファイルで提供する。参考書は適宜紹介する。
	成績評価の方法・基準等	予復習課題30%、試験20%、レポート50%で評価し、60%以上を合格とする。
	受講要件（履修条件）	特になし
	備考（URL）	
学生へのメッセージ		



シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名	和	E	担当教員	対象年次	学期	曜日・校時	開講期間
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660090Q0	●経済と経営(人から見た水産業)	和	E	高山 久明	2年,3年,4年	後期	月 4	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660090Q1	●経済と経営(東アジアの国際関係)	和	E	森川 裕二	2年,3年,4年	前期	水 5	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660090Q3	●経済と経営(社会制度と経済活動)	和	E	式見 雅代	2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660090Q4	●経済と経営(経営情報と会計情報)	和	E	津留崎 和義	2年,3年,4年	前期	木 3	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660090Q5	●経済と経営(地域社会と日本経済)	和	E	赤石 孝次	2年,3年,4年	前期	金 5	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660090Q6	●経済と経営(企業行動と戦略)	和	E	林 徹	2年,3年,4年	後期	木 3	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660090Q7	●経済と経営(国際社会と日本経済)	和	E	Basu Dipak Rag	2年,3年,4年	後期	木 4	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660090Q8	●経済と経営(人間と社会)	和	E	永田 聖二	2年,3年,4年	後期	月 4	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 旧カリ科目	201405660090Q9	●経済と経営(国際社会と日本経済)	和	E	Umali Celia Lopez	2年,3年,4年	前期	月 3	～

[戻る](#)

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660090Q0	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(人から見た水産業)		
編集担当教員	高山 久明		
授業担当教員名(科目責任者)	高山 久明		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高山 久明, 亀田 和彦, 山口 恭弘		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）	医歯工環		
担当教員Eメールアドレス	kameyan@nagasaki-u.ac.jp ; ayutrap@ ; nao-yama@		
担当教員研究室	水産学部新々館（2F-亀田）、同本館（1F-山口）、同本館（1F-高山）		
担当教員TEL	亀田（2807）、山口（2809）、高山（2809）		
担当教員オフィスアワー	授業終了後の在室時、時間は随時		
授業の概要及び位置づけ	漁船と漁具・漁法には安全性、効率性、環境への配慮が、漁業と価値形成には流通や経済の視点が欠かせません。これらを切り口に、対象生物が棲息する海洋生態系から少なくとも縄文時代以降、ヒトのみに付与された道具作成能力の結果として漁具・漁船に関する歴史と現状、産業としての観点からの経済学的視点を総括して話題を提供します。高等学校での生物、物理、公民がかかわり深い。		
授業到達目標	関心を持った領域の歴史と技術的背景から現状を理解し、将来を見据えることができる。		
授業方法（学習指導法）	当日の話題のポイントを提示後、パワーポイントや板書で講義を進める。講義中には複数回質問し、その回答を自己のノートに記載あるいは発言させ、それらを含め講義を組み立てる（山口）。プレゼンと板書を併用した講義を行ない、資料は必要に応じて配布する予定（高山、亀田）。		
授業内容	担当の各教員（順：山口、高山、亀田）が各5回、受け持ち実施する。		
	回	内容	
	1	地球・月の成り立ちからヒトの出現まで	
	2	人類、ヒトの定義とその2つの特性による他者との差別化	
	3	水産・漁業の定義、道具の発明、野生動物の獲得技術を確立すること	
	4	ヒトの知恵と漁具の体系	
	5	責任ある漁業	
	6	船・造船の歴史と技術の発達	
	7	航海・航海計器の歴史と技術の発達	
	8	漁船漁業発達の歴史	
9	現代の漁船漁業と漁業資源		

	10	近未来の漁船漁業と資源管理の展望
	11	水産資源の特徴と利用－コモンズの悲劇と管理の重要性
	12	環境問題と「食」
	13	資源問題と「食」
	14	技術革新とその功罪
	15	資源・環境との共生のもとで成り立つ我々の「食と社会」
	16	
キーワード	人間・水産・漁業・道具・船と航海・漁船漁業・資源と環境・食糧問題・持続性	
教科書・教材・参考書	特に定めない。教科書は必要に応じて講義中に紹介する。また必要に応じて資料を配付する。	
成績評価の方法・基準等	毎回のアクティブラーニングシート（30％）と課題レポートへの取り組み姿勢（山口）。各回の講義への積極的な参加姿勢およびレポート等の成果を総合的に評価する（高山、亀田）。	
受講要件（履修条件）	特にないが、講義に積極的に参画し、出された課題に真摯に取り組めることが大切です。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	特にありませんが、漁業協同組合、漁業者、水生生物（漁業資源）などのことばを手がかりに、あらかじめ、関連する書籍や新聞・雑誌を読んだりインターネットを閲覧しておくことをおすすめします。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660090Q1	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(東アジアの国際関係)		
編集担当教員	森川 裕二		
授業担当教員名(科目責任者)	森川 裕二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森川 裕二		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生（クラス等）	全学部		
担当教員Eメールアドレス	morikay@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	旧留学生センター内		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	火曜日13:30～15:00		
授業の概要及び位置づけ	日本の外交は、「東アジア」とどのような関わりをもってきたのか。これからの世界とアジア、日本を考えるうえで必要な基礎知識を学びます。日中関係や日韓関係など「東アジア」の平和について、目先の情報に流されずに考える力を養います。		
授業到達目標	日本とアジアの結びつきを歴史的に説明できるようにする。現在の東アジアの協力関係だけでなく、この地域で発生している領土問題や歴史認識問題について正確に理解するための、政治的な背景を知識として身に着ける。		
授業方法（学習指導法）	基本的には講義形式の授業を進めるが、受講者のコメント討論の時間を用意する。		
授業内容	東アジアと日本の歩みを歴史的に理解し、東アジアの現在の課題と将来について政治学な視点からとらえる		
	回	内容	
	1	授業の進め方 イントロダクション：「アジア」、「東アジア」とはなにか	
	2	西洋の衝撃と東アジアの伝統的秩序	
	3	日本外交と東アジア伝統的秩序の解体	
	4	列強による覇権争奪	
	5	第一次世界大戦後の平和秩序	
	6	第二次大戦とアジア主義	
	7	アジアの冷戦	
	8	第二次戦後後の国際秩序と東アジア	
	9	冷戦体制崩壊後の東アジア	
10	日米同盟の再定義と東アジア		

	11 東アジアの奇跡と挫折
	12 ASEANと東アジア地域主義 ①
	13 ASEANと東アジア地域主義 ②
	14 大国・中国と戦後秩序のゆらぎ
	15 まとめ 東アジアの将来
	16 定期試験
キーワード	国際政治、東アジア、冷戦、戦後秩序、東アジア共同体
教科書・教材・参考書	教科書：日中韓3国共通歴史教材委員会（編集）『新しい東アジアの近現代史[上] 国際関係の変動で読む 未来をひらく歴史』 日本評論社、2012年。 参考書：下斗米 伸夫（著）『アジア冷戦史』 中央公論新社、2004年。ハウ C・S（著）、白石隆（編）『中国は東アジアをどう変えるか』 中央公論新社、2012年。細谷 雄一（著）『国際秩序 - 18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ』 中央公論新社、2012年。毛里和子（編集代表）『東アジア共同体の構築』 全4巻、岩波書店、2006～2007年。
成績評価の方法・基準等	試験50%、小テスト30%、授業への積極的な参加・貢献度20%から総合的に判断し成績評価する。
受講要件（履修条件）	TV、新聞のアジアについての国際報道は、チェックしておくこと。授業のほか、小テストでも扱います。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660090Q3	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(社会制度と経済活動)		
編集担当教員	式見 雅代		
授業担当教員名(科目責任者)	式見 雅代		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	式見 雅代		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	mshikimi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館6階630		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	講義の前後10分。その他の時間についてはメールにて予約を取ってください。		
授業の概要及び位置づけ	我々は、モノやサービスの購入などの経済活動を行うためににお金を必要とする。お金の価値が守られるための金融のしくみについて、考察する。		
授業到達目標	金融が、消費者や企業の活動に、どのような機能を果たしているかを説明できる。 銀行の機能とそれが果たされるためにどのような仕組みが設けられているかが説明できる。 利率とは何か、利率はどのように決まるかが説明できる。		
授業方法（学習指導法）	教科書、配布資料、DVD等を用いた講義と小さなグループでの討論が中心になります。宿題も数回あります。		
授業内容	回	内容	
	1	ガイダンス	
	2	貨幣による決済：電子マネーは貨幣？	
	3	銀行と決済制度	
	4	貨幣の供給	
	5	決済システムの安定性（1）預金の安全性が信頼できなくなるとどうなる？	
	6	決済システムの安定性（2）	
	7	貨幣の過不足と金融	
	8	資金の過不足と貯蓄・投資の関係	
	9	直接金融と間接金融	
	10	間接金融のしくみ、リスクと金融制度	
11	親和銀行外部講師による特別講義「マネープランセミナー（豊かな社会人生活のため）」		



	に) 」
	12 利率とは
	13 金利・資産価格と経済行動
	14 まとめと復習
	15 期末試験
	16
キーワード	貨幣、中央銀行、金融システム、情報の非対称性
教科書・教材・参考書	【教科書】 岩田規久男『テキストブック金融入門』東洋経済新報社、2008年。 【参考書】 池尾和人『現代の金融入門』新版、ちくま新書、2010年。 晝間文彦『基礎コース 金融論』第3版、2011年。
成績評価の方法・基準等	期末試験100%とします。
受講要件（履修条件）	授業の他に、週平均2時間以上の学習（予習、復習等）が必要になります。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	授業の進捗状況により、シラバス内容や授業の進め方、教科書の使用範囲などを調整変更することがあります。学習方法としては、教科書をよく読むことを勧めます。新聞等で報道される金融に関するニュースに関心を持ってください。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660090Q4	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(経営情報と会計情報)		
編集担当教員	津留崎 和義		
授業担当教員名(科目責任者)	津留崎 和義		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	津留崎 和義		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-44		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	turusaki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館601		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	水曜12～13時		
授業の概要及び位置づけ	イノベーションを起こす思考の型を身につける		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを他人に明確に伝えることができる</li> <li>・チームでの議論に主体的に関与できる</li> <li>・まわりの立場を理解し、それを受け入れることができる</li> <li>・チームをファシリテートできる</li> </ul>		
授業方法（学習指導法）	5人程度のチームを編成して学習を進める「協同学習」の形をとる。与えられた課題に対し、チームでディスカッションを行い、問題点・解決すべき点を明らかにした後に、これらを解決・克服するスキルやノウハウの説明、および実践から振り返りまでが、各回の主な進め方となる。		
授業内容	回	内容	
	1	イントロダクションーイノベーションとはー	
	2	チームビルディング(1)ーアイスブレイカーー	
	3	チームビルディング(2)ーグラウンドデザインー	
	4	ファシリテーション(1)ーファシリテーターー	
	5	ファシリテーション(2)ーファシリテーショングラフィックー	
	6	アイデア発想(1)ーブレインストーミングー	
	7	アイデア発想(2)ークリエイティブファシリテーションー	
	8	アイデア編集(1)ーアイデアの展開ー	
	9	アイデア編集(2)ーアイデアの結合ー	
	10	アイデア編集(3)ーアイデアの応用ー	

	11	中間発表(1)
	12	中間発表(2)
	13	アイデア編集(4)ーアイデアの精緻ー
	14	アイデア表現ープロトタイピングー
	15	最終発表(1)
	16	最終発表(2)
キーワード	イノベーション、ファシリテーション	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。参考書は適宜紹介する。	
成績評価の方法・基準等	平素の学習態度（チームや授業への貢献度など）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660090Q5	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(地域社会と日本経済)		
編集担当教員	赤石 孝次		
授業担当教員名(科目責任者)	赤石 孝次		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	赤石 孝次		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	教育学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス	akaishi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館（片淵キャンパス）6階632号		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	金曜日12:00～13:00		
授業の概要及び位置づけ	1980年代以降、先進国経済は経済のグローバル化と資本主義経済システムの非物質主義的転回という二つの大きな構造変化にさらされてきました。経済のグローバル化はこれまで国民国家によって守られてきた地域を直接的に世界経済の変動の影響を受ける状況に追いやっています。また、経済システムの中で非物質的要素が重要性を増すにつれて、社会関係資本の厚みの形成が地域の新たな発展を規定していくと考えられます。この講義では、経済のグローバル化と資本主義経済システムの非物質主義的転回の進行の中で求められる地域発展の方向性と戦略とともに、長崎市への教訓を考えていきます。		
授業到達目標	①現代経済社会に関する幅広い知識および思考方法を身につける（基礎的知識、批判的思考、自主的探究）。 ②自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる（自己表現、コミュニケーション）。 ③日本の地域社会の発展や経済の歩みを論理的に考察できる（基礎的知識、歴史・略史を扱う、学問を尊敬する態度）。		
授業方法（学習指導法）	Questioning and Answering方式で行います。学生のみなさんに様々な方向から問いかけを行います。みなさんはそれに対して自分なりに考え、意見を述べてください。それに対して、私や他の参加者が疑問があればその疑問を提示していき、これを繰り返していくことで知識の定着とその活用能力を高めていきます。 また、私と学生のみなさんがコミュニケーションできるようにMessage sheet( Minitis Paper) を利用します。これは、講義中のQuestionに対するAnswerや講義中に感じた疑問、質問、意見、アイデア等を記し、講義終了後に提出してもらうもので、それに対しコメントを記して翌週に返却するものです。		
	回	内容	
	1	グローバル化とは何か？	
	2	グローバル化と公共投資中心の地域政策	

授業内容	3	グローバル化と地域格差	
	4	公的投資の再構築の長野県財政構造改革(1)	
	5	公的投資の再構築と長野県財政構造改革(2)	
	6	EUの地域格差是正策と地域の持続可能な発展(1)	
	7	EUの地域格差是正策と地域の持続可能な発展(2)	
	8	EUの地域格差是正策と地域の持続的な発展(3)	
	9	持続可能な発展に向けた地域戦略—ケース・スタディー—(1)	
	10	持続可能な発展に向けた地域戦略—ケース・スタディー—(2)	
	11	持続可能な発展に向けた地域戦略—ケース・スタディー—(3)	
	12	地域発展の共通要素	
	13	社会関係資本と投資戦略	
	14	グローバル化時代の発展とは？	
	15	長崎モデルの構築は可能か？	
	16		
	キーワード	経済のグローバル化、非物質主義的転向、地域格差、社会関係資本、地域政策	
	教科書・教材・参考書	とくに指定しない。	
成績評価の方法・基準等	講義中のQ&Aへの参加ならびに毎回の講義で提出をお願いするMessage Sheetにより総合的に評価する。		
受講要件（履修条件）	特になし。		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660090Q6	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(企業行動と戦略)		
編集担当教員	林 徹		
授業担当教員名(科目責任者)	林 徹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 徹		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	全学部		
担当教員Eメールアドレス	thaya@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館627研究室		
担当教員TEL	095-820-6368		
担当教員オフィスアワー	原則として講義後の1時間。開講時に説明します。		
授業の概要及び位置づけ	戦略の本質は、どう生きるか、である。自立。依存、共棲、乗っ取り、身売り、いろいろある。戦略と組織の観点から、トヨタ、ウォルト・ディズニー、ロック・バンド、零細企業など、種々の事例を取り上げて分析する。		
授業到達目標	戦略と組織の観点から企業行動を分析できる。		
授業方法（学習指導法）	プレゼンテーション、レポート作成、質疑応答		
授業内容	回	内容	
	1	進め方と単位認定の確認。 戦略と組織、外界適応の基礎に関する講義。	
	2	第1回の補足など。 挙母町と豊田自動織機。 事例のイラスト化による理解と、疑問点の抽出。	
	3	第2回のつづき。	
	4	フランス政府とユーロ・ディズニー。 事例のイラスト化による理解と、疑問点の抽出。	
	5	浦安町と東京ディズニー。 事例のイラスト化による理解と、疑問点の抽出。	
	6	戦略と組織の観点から3つの事例の比較検討。 受講生による身近な事例の紹介と検討。	
	7	ザ・ビートルズ結成まで。 レノンとマッカートニーを中心にしながら、 イラスト化による理解と、疑問点の抽出。	
	8	第7回のつづき。	

	9	キャロル結成まで、解散まで、解散後。 矢沢を中心にイラスト化による理解と、疑問点の抽出。
	10	受講者による他のロックバンドなどの事例の紹介と検討。
	11	K会計事務所の事例。 イラスト化による理解と、疑問点の抽出。
	12	同族企業K建設会社の事例。 イラスト化による理解と、疑問点の抽出。
	13	松風工業と京都セラミックの事例。 イラスト化による理解と、疑問点の抽出。
	14	第13回のつづき。
	15	戦略と組織の観点から、組織均衡論を再解釈する。 全体のふりかえり。
	16	レポート課題提出。
キーワード	戦略、組織、組織均衡、M&Aの本質	
教科書・教材・参考書	教科書： 林徹(2011)『協働と躍動のマネジメント』中央経済社。 林徹(2005)『組織のパワーとリズム』中央経済社。	
成績評価の方法・基準等	事例のレポートまたはイラストの作成（30%）、プレゼンテーション（30%）、質疑応答（20%）、レポート課題（20%）。	
受講要件（履修条件）	事例を読む時間（おおむね毎回1時間以内）	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660090Q7	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(国際社会と日本経済)		
編集担当教員	Basu Dipak Rag		
授業担当教員名(科目責任者)	Basu Dipak Rag		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	Basu Dipak Rag		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ			
授業到達目標			
授業方法（学習指導法）			
授業内容			
キーワード			
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準等			
受講要件（履修条件）			
備考（URL）			
学生へのメッセージ			





タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660090Q8	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(人間と社会)		
編集担当教員	永田 聖二		
授業担当教員名(科目責任者)	永田 聖二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	永田 聖二		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生 (クラス等)	医歯工環		
担当教員Eメールアドレス	seiji@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 本館6F 612号室		
担当教員TEL	819-2310		
担当教員オフィスアワー	月曜V限		
授業の概要及び位置づけ	古典派経済学からケインズ経済学まで、さまざまな経済学説の変遷をたどることによって、資本主義経済の機構を理論的に解明する。		
授業到達目標	古典派経済学、マルクス経済学、近代経済学など、さまざまな経済学説の資本主義経済観を把握したうえで、資本主義経済の機構を理論的に説明できる。		
授業方法 (学習指導法)			
授業内容	回	内容	
	1	経済学の課題と対象	
	2	流通過程と重商主義思想1	
	3	流通過程と重商主義思想2	
	4	アダム・スミスと国富	
	5	アダム・スミスと生産過程	
	6	リカードウと労働価値説	
	7	リカードウと分配の経済学	
	8	リカードウと賃金論	
	9	リカードウと地代論	
	10	マルクスと価値形態論	
	11	レオンティエフと産業連関分析1	
	12	レオンティエフと産業連関分析2	
	13	スラッフアと価格方程式1	

	14	スラッフアと価格方程式2
	15	ケインズと有効需要の原理
	16	期末試験
キーワード	スミス、リカードウ、マルクス、スラッフア、ケインズ	
教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等	期末試験100%	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	ベクトルや行列など、線形代数の初歩的知識があれば、理解の助けになる。	



---

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



liveCampus

タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201405660090Q9	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(国際社会と日本経済)		
編集担当教員	Umali Celia Lopez		
授業担当教員名(科目責任者)	Umali Celia Lopez		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	Umali Celia Lopez		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ			
授業到達目標			
授業方法 (学習指導法)			
授業内容			
キーワード			
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準等			
受講要件 (履修条件)			
備考 (URL)			
学生へのメッセージ			



シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名	和	E	評	主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 自由 選択科目	20140566011001	●日本国憲 法	和	E	評	小林 寛	1年,2年,3年,4年	前期	火 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 自由 選択科目	20140566011002	●日本国憲 法	和	E	評	吉田 省 三	1年,2年,3年,4年	前期	火 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 自由 選択科目	20140566011003	●日本国憲 法	和	E		植木 と み子	1年,2年,3年,4年	前期	水 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 自由 選択科目	20140566011004	●日本国憲 法	和	E	評	植木 と み子	1年,2年,3年,4年	前期	水 6	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 自由 選択科目	20140566011005	●日本国憲 法	和	E	評	池谷 和 子	1年,2年,3年,4年	前期	水 6	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 自由 選択科目	20140566011006	●日本国憲 法	和	E		植木 と み子	1年,2年,3年,4年	後期	水 6	～

[戻る](#)

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 自由選択科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140566011001	科目番号	05660110
授業科目名	●日本国憲法		
編集担当教員	小林 寛		
授業担当教員名(科目責任者)	小林 寛		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小林 寛		
科目分類	自由選択科目、人文・社会科学科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-21		
対象学生（クラス等）	全学部		
担当教員Eメールアドレス	hkoba@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	428		
担当教員TEL	095-819-2725		
担当教員オフィスアワー	木曜日午後3時～5時		
授業の概要及び位置づけ	日本国憲法において保障された個別の基本的人権を取り上げつつ、日本国憲法の基本原理の一つである基本的人権の尊重の理念を理解できることをねらいとします。		
授業到達目標	基本的人権の尊重の理念及び個別の基本的人権の内容や限界等について理解し、これを自らの言葉で説明できるようになることを到達目標とします。		
授業方法（学習指導法）	通常の講義形式により授業を行います。適宜発問するなどして理解を確認します。		
授業内容	本授業では、日本国憲法において保障されている基本的人権の原理・内容・限界等について講義を行います。本授業では、基本的人権を中心的テーマとしますが、それに限定せず、立憲主義・憲法史・統治機構等についても可能な範囲で言及する予定です。また、過去の具体的事件を取り上げつつ講義を行う予定です。ただし、以下に掲げるのはおおよその予定であり、解説の追加等により、適宜変更される場合もあります。		
	回	内容	
	1	イントロダクション・立憲主義の概説	
	2	憲法史の概説	
	3	日本国憲法の基本原理	
	4	基本的人権の原理と限界	
	5	包括的基本権	
	6	法の下での平等	
	7	精神的自由権①	
	8	精神的自由権②	
9	精神的自由権③		

	10	経済的自由権①
	11	経済的自由権②
	12	人身の自由・国務請求権・参政権
	13	社会権
	14	統治機構の概説①
	15	統治機構の概説②
	16	定期試験
キーワード	人権尊重主義、平和主義、国民主権原理	
教科書・教材・参考書	教科書：大隅義和・大江正昭編『憲法学へのいざない第2版』（青林書院、2012年） 参考書：芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法第五版』（岩波書店、2011年）	
成績評価の方法・基準等	定期試験（90%） 授業への積極的な取り組み状況（10%）	
受講要件（履修条件）	憲法などの法律科目に関心のある学生の受講を期待しています。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	憲法を含む法律科目に興味・関心を持って頂けたら有難く思います。憲法を勉強して、我が国は法治国家であることを理解出来るようになりましょう。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 自由選択科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火2																		
開講期間																					
必修選択	選択	単位数	2.0																		
時間割コード	20140566011002	科目番号	05660110																		
授業科目名	●日本国憲法																				
編集担当教員	吉田 省三																				
授業担当教員名(科目責任者)	吉田 省三																				
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉田 省三																				
科目分類	自由選択科目、(教職免許科目他)、人文・社会科学科目																				
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																		
教室	[教養A棟]A-22																				
対象学生（クラス等）	制限しない																				
担当教員Eメールアドレス	yosida-s@nagasaki-u.ac.jp																				
担当教員研究室	経済学部本館512																				
担当教員TEL	095-820-6397																				
担当教員オフィスアワー	授業終了後																				
授業の概要及び位置づけ	日本国憲法97条は、人権を「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」とすると同時に「過去幾多の試練に堪へ」てきたという。日本国憲法は、憲法「改正」という現在の「試練」に堪えられるか、憲法を人類の歴史のなかにおいてとらえ直してみよう。																				
授業到達目標	世界および日本の憲法の歴史、憲法の基本的概念、主要な憲法判例を理解する。個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期する。																				
授業方法（学習指導法）	教科書を使用し、人権の思想、人権のためのたたかい、日本国憲法の主要な事件、判例を解説する。																				
授業内容	<p>憲法の過去—立憲主義の歴史、現在—人権の実現の状況、未来—改憲問題について講義します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>憲法の過去：立憲主義、憲法とは何か。「人権を承認せず、権力の分立が無い人民は憲法をもたない。」</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ブルジョア革命と人権</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人権宣言—合州国「独立宣言」・フランス革命「人権宣言」</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本の人権思想</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>日本国憲法とその歴史（1）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本国憲法とその歴史（2）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>憲法のキーワード：権利と義務（1）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>憲法のキーワード：権利と義務（2）</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	憲法の過去：立憲主義、憲法とは何か。「人権を承認せず、権力の分立が無い人民は憲法をもたない。」	2	ブルジョア革命と人権	3	人権宣言—合州国「独立宣言」・フランス革命「人権宣言」	4	日本の人権思想	5	日本国憲法とその歴史（1）	6	日本国憲法とその歴史（2）	7	憲法のキーワード：権利と義務（1）	8	憲法のキーワード：権利と義務（2）
回	内容																				
1	憲法の過去：立憲主義、憲法とは何か。「人権を承認せず、権力の分立が無い人民は憲法をもたない。」																				
2	ブルジョア革命と人権																				
3	人権宣言—合州国「独立宣言」・フランス革命「人権宣言」																				
4	日本の人権思想																				
5	日本国憲法とその歴史（1）																				
6	日本国憲法とその歴史（2）																				
7	憲法のキーワード：権利と義務（1）																				
8	憲法のキーワード：権利と義務（2）																				

	9	憲法のキーワード：民主主義と権利保障（1）
	10	憲法のキーワード：民主主義と権利保障（2）
	11	憲法のキーワード：民主主義と権利保障（3）
	12	憲法のキーワード：民主主義と権利保障（4）
	13	憲法と国際社会
	14	憲法の未来：憲法「改正」問題（1）
	15	憲法の未来：憲法「改正」問題（2）
	16	定期試験
キーワード	立憲主義、民主主義、共和主義	
教科書・教材・参考書	<p>(◆は必携です)</p> <p>◆教科書 芦部信喜『憲法第五版』岩波書店</p> <p>◆教材 「日本国憲法」「大日本帝国憲法」等を収録する法令集</p> <p>●参考書 中江兆民『三酔人経綸問答』岩波文庫。 森英樹ほか『3・11と憲法』日本評論社、2012。 阪田雅裕『政府の憲法解釈』有斐閣、2013。</p>	
成績評価の方法・基準等	定期試験による(100%)	
受講要件（履修条件）	無し。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	日本国民はいま、憲法の規範を政府の解釈によって変更するという差し迫った課題をつきつけられています。日本国憲法のひとつひとつの条文のもつ重みを受けとめてみましょう。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 自由選択科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水5														
開講期間																	
必修選択	選択	単位数	2.0														
時間割コード	20140566011003	科目番号	05660110														
授業科目名	●日本国憲法																
編集担当教員	植木 とみ子																
授業担当教員名(科目責任者)	植木 とみ子																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植木 とみ子																
科目分類	自由選択科目、人文・社会科学科目																
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目														
教室	[教養C棟]C-16																
対象学生（クラス等）	全学生																
担当教員Eメールアドレス	tuterrace@kzh.biglobe.ne.jp																
担当教員研究室	非常勤講師室																
担当教員TEL	092-521-6851																
担当教員オフィスアワー	eメールにて随時受け付けます																
授業の概要及び位置づけ	日本国憲法が、いかに日本国民にとって大切なものであるか、私たちの権利も義務も基本的にこの日本国憲法によって守られていること、そしてこの日本国憲法を守るのもまた私たち自身であることの自覚を持っていただくことを目的としています																
授業到達目標	日本国を支える一員として、日本国憲法の全体を理解し、大切な条文は諳んじていただくことを期待します																
授業方法（学習指導法）	必要最小の限度で講義形式で憲法の概要を説明しますが、基本的には実際に争われた裁判の事例を検討することにより、憲法がいかに市民生活に身近でたいせつなものであるかを、実感していただけるような授業を展開したいと考えています。そのため授業の3回目あたりから、裁判形式でみなさんの積極的なディベートを期待しています																
	<p>まず、日本国憲法の重要性について、つぎに日本国憲法の基本的理念である国民主権と平和主義について、講義します。基本的人権については、包括的基本権と法の下での平等、さらに各種の自由権や社会権について、できるだけ身近な判例を数多く取り上げ、検討して参ります。統治機構については、その仕組みを理解し、健全な批判精神をもっていただくために、日々の社会事象を取り上げたいと考えています。</p> <p>日本国憲法は、関係する条文を毎回確認していきますので、どのような形でも結構ですから、必ず入手して下さい</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とはなにか、憲法と他の法律との関係</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>平和主義（憲法9条、沖縄）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	法とはなにか、憲法と他の法律との関係	2	国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）	3	平和主義（憲法9条、沖縄）	4	幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）	5	法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）	6	内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）
回	内容																
1	法とはなにか、憲法と他の法律との関係																
2	国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）																
3	平和主義（憲法9条、沖縄）																
4	幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）																
5	法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）																
6	内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）																

授業内容	7	表現の自由（ポルノ・有害図書、報道の自由と限界、教科書検定）
	8	経済的自由（職業選択の自由と営業の規制、私有財産の保障とその制限）
	9	人身の自由（適正手続きとは、死刑制度について）
	10	社会権（生存権と生活保護、教育権は誰のもの、労働基本権）
	11	国務請求権と参政権 基本的人権の限界（公務員、外国人、私的関係）
	12	立法（国会の二院制は必要か、一票の重みの格差）
	13	行政（議員内閣制、行政の肥大化）
	14	司法（裁判所の組織、裁判員制度）
	15	地方自治（地方自治の実態、これからの地方自治のあり方） 憲法の保障（憲法改正に関する諸問題）
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	日本国憲法の条文を各自用意して下さい（103条しかありませんから、コピーしてもたいしたことはありません） 裁判例についてはこちらで用意します	
成績評価の方法・基準等	判例や条文に関する試験を実施します	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	常に社会の出来事をチェックし、自分との関係を考えること	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 自由選択科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水6														
開講期間																	
必修選択	選択	単位数	2.0														
時間割コード	20140566011004	科目番号	05660110														
授業科目名	●日本国憲法																
編集担当教員	植木 とみ子																
授業担当教員名(科目責任者)	植木 とみ子																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植木 とみ子																
科目分類	自由選択科目、(教職免許科目他)、人文・社会科学科目																
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目														
教室	[教養C棟]C-16																
対象学生 (クラス等)	全学生																
担当教員Eメールアドレス	tuterrace@kzh.biglobe.ne.jp																
担当教員研究室	非常勤講師室																
担当教員TEL	092-521-6851																
担当教員オフィスアワー	eメールにて随時受け付けます																
授業の概要及び位置づけ	日本国憲法が、いかに日本国民にとって大切なものであるか、私たちの権利も義務も基本的にこの日本国憲法によって守られていること、そしてこの日本国憲法を守るのもまた私たち自身であることの自覚を持っていただくことを目的としています																
授業到達目標	日本国を支える一員として、日本国憲法の全体を理解し、大切な条文は諳んじていただくことを期待します																
授業方法 (学習指導法)	必要最小の限度で講義形式で憲法の概要を説明しますが、基本的には実際に争われた裁判の事例を検討することにより、憲法がいかに市民生活に身近でたいせつなものであるかを、実感していただけるような授業を展開したいと考えています。そのため授業の3回目あたりから、裁判形式でみなさんの積極的なディベートを期待しています																
	<p>まず、日本国憲法の重要性について、つぎに日本国憲法の基本的理念である国民主権と平和主義について、講義します。基本的人権については、包括的基本権と法の下での平等、さらに各種の自由権や社会権について、できるだけ身近な判例を数多く取り上げ、検討して参ります。統治機構については、その仕組みを理解し、健全な批判精神をもっていただくために、日々の社会事象を取り上げたいと考えています。</p> <p>日本国憲法は、関係する条文を毎回確認していきますので、どのような形でも結構ですから、必ず入手して下さい</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とはなにか、憲法と他の法律との関係</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国民主権 (大日本帝国憲法と日本国憲法)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>平和主義 (憲法9条、沖縄)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>幸福追求権 (プライバシーの権利、自己決定権)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>法の下での平等 (男女は平等か、尊属殺について)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>内心の自由 (信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	法とはなにか、憲法と他の法律との関係	2	国民主権 (大日本帝国憲法と日本国憲法)	3	平和主義 (憲法9条、沖縄)	4	幸福追求権 (プライバシーの権利、自己決定権)	5	法の下での平等 (男女は平等か、尊属殺について)	6	内心の自由 (信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治)
回	内容																
1	法とはなにか、憲法と他の法律との関係																
2	国民主権 (大日本帝国憲法と日本国憲法)																
3	平和主義 (憲法9条、沖縄)																
4	幸福追求権 (プライバシーの権利、自己決定権)																
5	法の下での平等 (男女は平等か、尊属殺について)																
6	内心の自由 (信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治)																

授業内容	7	表現の自由（ポルノ・有害図書、報道の自由と限界、教科書検定）
	8	経済的自由（職業選択の自由と営業の規制、私有財産の保障とその制限）
	9	人身の自由（適正手続きとは、死刑制度について）
	10	社会権（生存権と生活保護、教育権は誰のもの、労働基本権）
	11	国務請求権と参政権 基本的人権の限界（公務員、外国人、私的関係）
	12	立法（国会の二院制は必要か、一票の重みの格差）
	13	行政（議員内閣制、行政の肥大化）
	14	司法（裁判所の組織、裁判員制度）
	15	地方自治（地方自治の実態、これからの地方自治のあり方） 憲法の保障（憲法改正に関する諸問題）
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	日本国憲法の条文を各自用意して下さい（103条しかありませんから、コピーしてもたいしたことはありません） 裁判例についてはこちらで用意します	
成績評価の方法・基準等	判例や条文に関する試験を実施します	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	常に社会の出来事をチェックし、自分との関係を考えること	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 自由選択科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140566011005	科目番号	05660110
授業科目名	●日本国憲法		
編集担当教員	池谷 和子		
授業担当教員名(科目責任者)	池谷 和子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	池谷 和子		
科目分類	自由選択科目、人文・社会科学科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	全学部の学生		
担当教員Eメールアドレス	kazukeya@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館609研究室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	水曜日の4校時		
授業の概要及び位置づけ	憲法の基本事項を理解し、実生活と関連づけて捉えられることが出来るような授業を行う。		
授業到達目標	今後の人生や就職に役立つような憲法の知識を身に付けさせること。		
授業方法（学習指導法）	講義＋レポートの作成		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 憲法の基礎</li> <li>3 国民主権と天皇制</li> <li>4 平和主義</li> <li>5 基本的人権の基礎</li> <li>6 包括的基本権と法の下での平等</li> <li>7 精神的自由権①</li> <li>8 精神的自由権②</li> <li>9 経済的自由権</li> <li>10 人身の自由・国務請求権・参政権</li> <li>11 社会権</li> <li>12 国会</li> <li>13 内閣</li> <li>14 裁判所</li> <li>15 財政・地方自治・憲法保障</li> </ol>		
キーワード	憲法		
教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：芦部信喜『憲法第五版』岩波書店</li> <li>・六法（出版社は問わない）も持参すること</li> </ul>		
成績評価の方法・基準等	毎回のレポートの合計により成績評価		

受講要件（履修条件）	4/5以上の出席が必須
備考（URL）	
学生へのメッセージ	教科書の該当部分を事前に予習した上で、それに関連した事柄について情報収集（テレビや新聞を見る、家族や友人と話をする等）をし、自ら日常生活に則して憲法を考えるように心がけておけば、レポートが書きやすくなります。



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 自由選択科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水6														
開講期間																	
必修選択	選択	単位数	2.0														
時間割コード	20140566011006	科目番号	05660110														
授業科目名	●日本国憲法																
編集担当教員	植木 とみ子																
授業担当教員名(科目責任者)	植木 とみ子																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植木 とみ子																
科目分類	自由選択科目、人文・社会科学科目																
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目														
教室	[教養A棟]A-23																
対象学生（クラス等）	全学生																
担当教員Eメールアドレス	tuterrace@kzh.biglobe.ne.jp																
担当教員研究室	非常勤講師室																
担当教員TEL	092-521-6851																
担当教員オフィスアワー	eメールにて随時受け付けます																
授業の概要及び位置づけ	日本国憲法が、いかに日本国民にとって大切なものであるか、私たちの権利も義務も基本的にこの日本国憲法によって守られていること、そしてこの日本国憲法を守るのもまた私たち自身であることの自覚を持っていただくことを目的としています																
授業到達目標	日本国を支える一員として、日本国憲法の全体を理解し、大切な条文は諳んじていただくことを期待します																
授業方法（学習指導法）	必要最小の限度で講義形式で憲法の概要を説明しますが、基本的には実際に争われた裁判の事例を検討することにより、憲法がいかに市民生活に身近でたいせつなものであるかを、実感していただけるような授業を展開したいと考えています。そのため授業の3回目あたりから、裁判形式でみなさんの積極的なディベートを期待しています																
	<p>まず、日本国憲法の重要性について、つぎに日本国憲法の基本的理念である国民主権と平和主義について、講義します。基本的人権については、包括的基本権と法の下での平等、さらに各種の自由権や社会権について、できるだけ身近な判例を数多く取り上げ、検討して参ります。統治機構については、その仕組みを理解し、健全な批判精神をもっていただくために、日々の社会事象を取り上げたいと考えています。</p> <p>日本国憲法は、関係する条文を毎回確認していきますので、どのような形でも結構ですから、必ず入手して下さい</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とはなにか、憲法と他の法律との関係</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>平和主義（憲法9条、沖縄）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	法とはなにか、憲法と他の法律との関係	2	国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）	3	平和主義（憲法9条、沖縄）	4	幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）	5	法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）	6	内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）
回	内容																
1	法とはなにか、憲法と他の法律との関係																
2	国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）																
3	平和主義（憲法9条、沖縄）																
4	幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）																
5	法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）																
6	内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）																

授業内容	7	表現の自由（ポルノ・有害図書、報道の自由と限界、教科書検定）
	8	経済的自由（職業選択の自由と営業の規制、私有財産の保障とその制限）
	9	人身の自由（適正手続きとは、死刑制度について）
	10	社会権（生存権と生活保護、教育権は誰のもの、労働基本権）
	11	国務請求権と参政権 基本的人権の限界（公務員、外国人、私的関係）
	12	立法（国会の二院制は必要か、一票の重みの格差）
	13	行政（議員内閣制、行政の肥大化）
	14	司法（裁判所の組織、裁判員制度）
	15	地方自治（地方自治の実態、これからの地方自治のあり方） 憲法の保障（憲法改正に関する諸問題）
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	日本国憲法の条文を各自用意して下さい（103条しかありませんから、コピーしてもたいしたことはありません） 裁判例についてはこちらで用意します	
成績評価の方法・基準等	判例や条文に関する試験を実施します	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	常に社会の出来事をチェックし、自分との関係を考えること	

